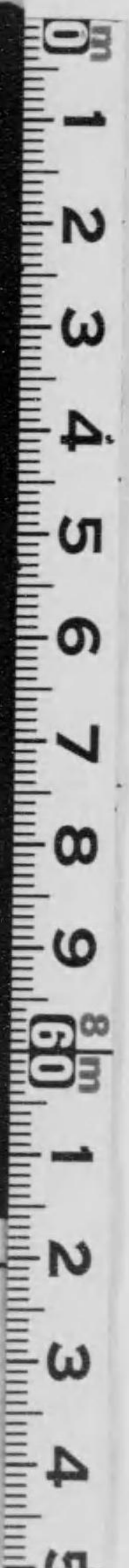


始



82
6174

福島縣之産業

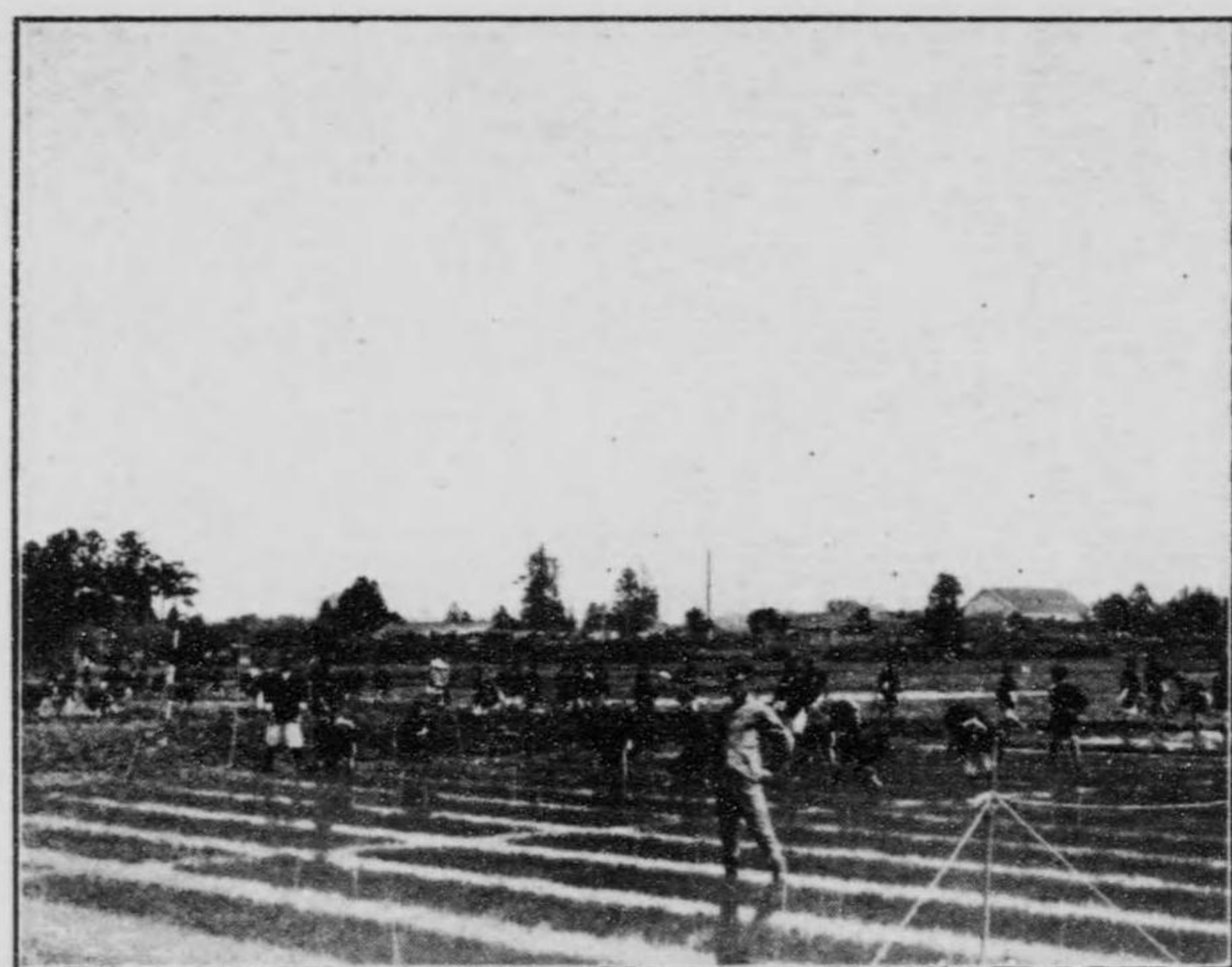


82
6171



福島縣之産業





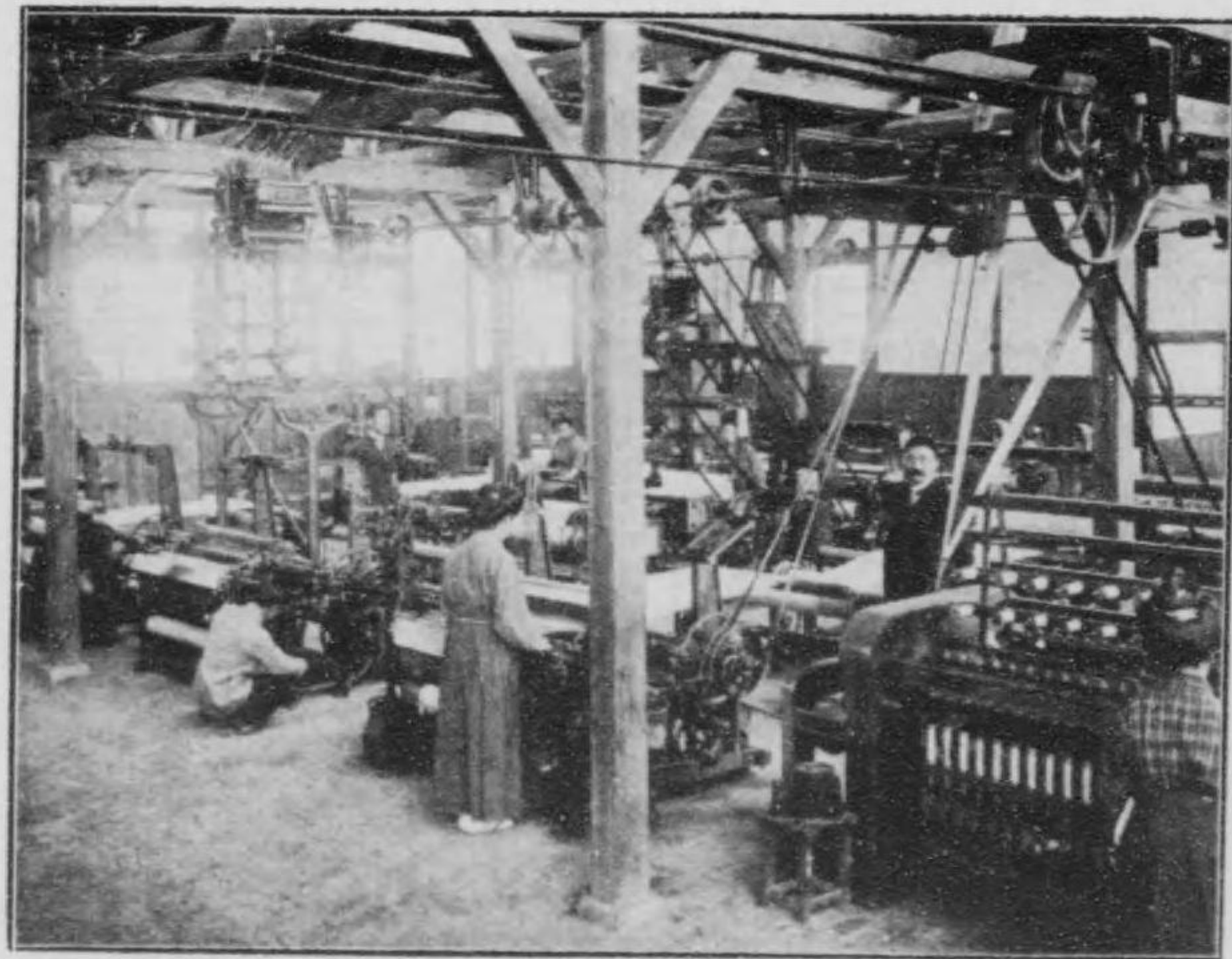
福島縣立農學校農場



福島縣立農事試驗場酸性土試驗



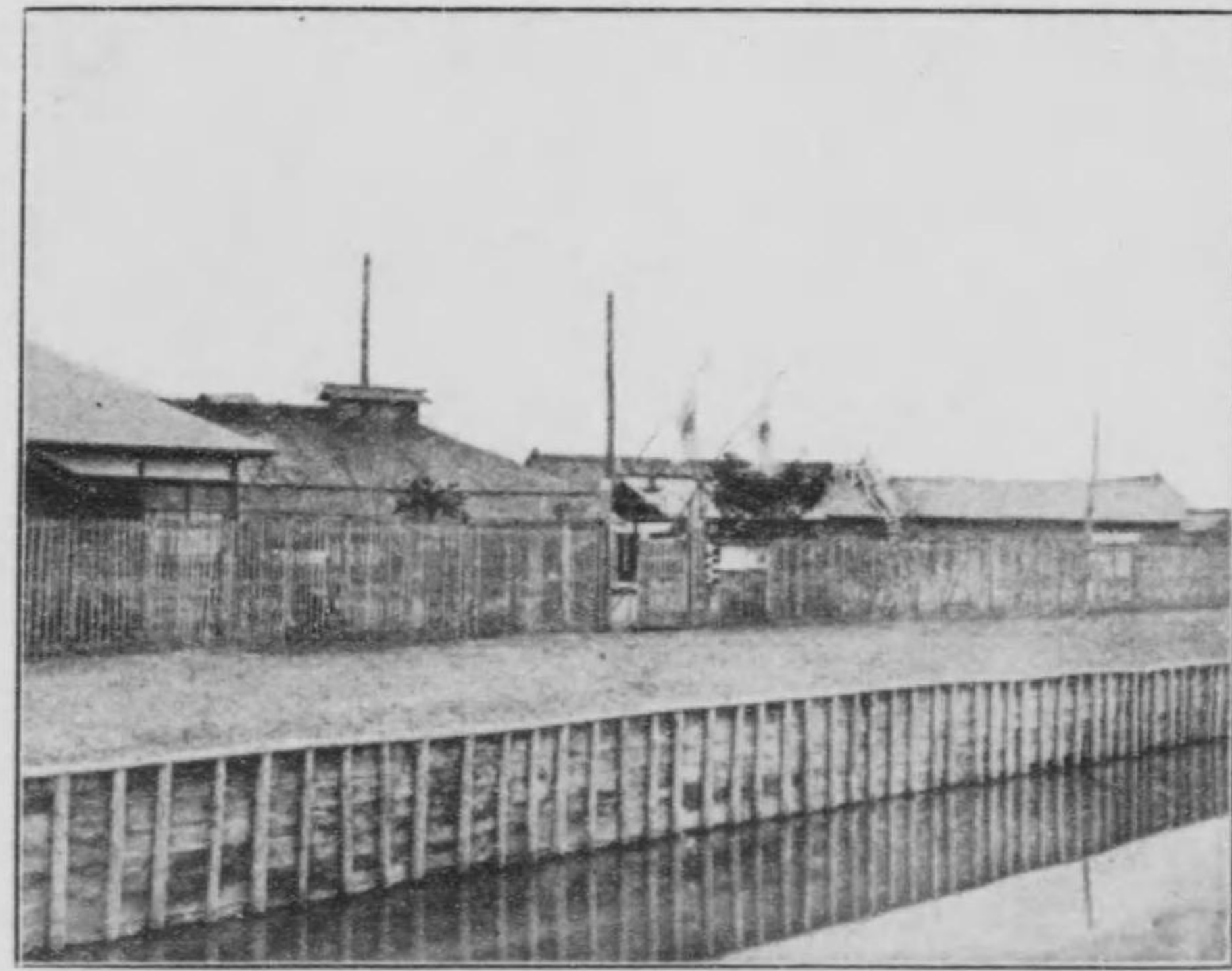
福島縣工業學校窯業科實習



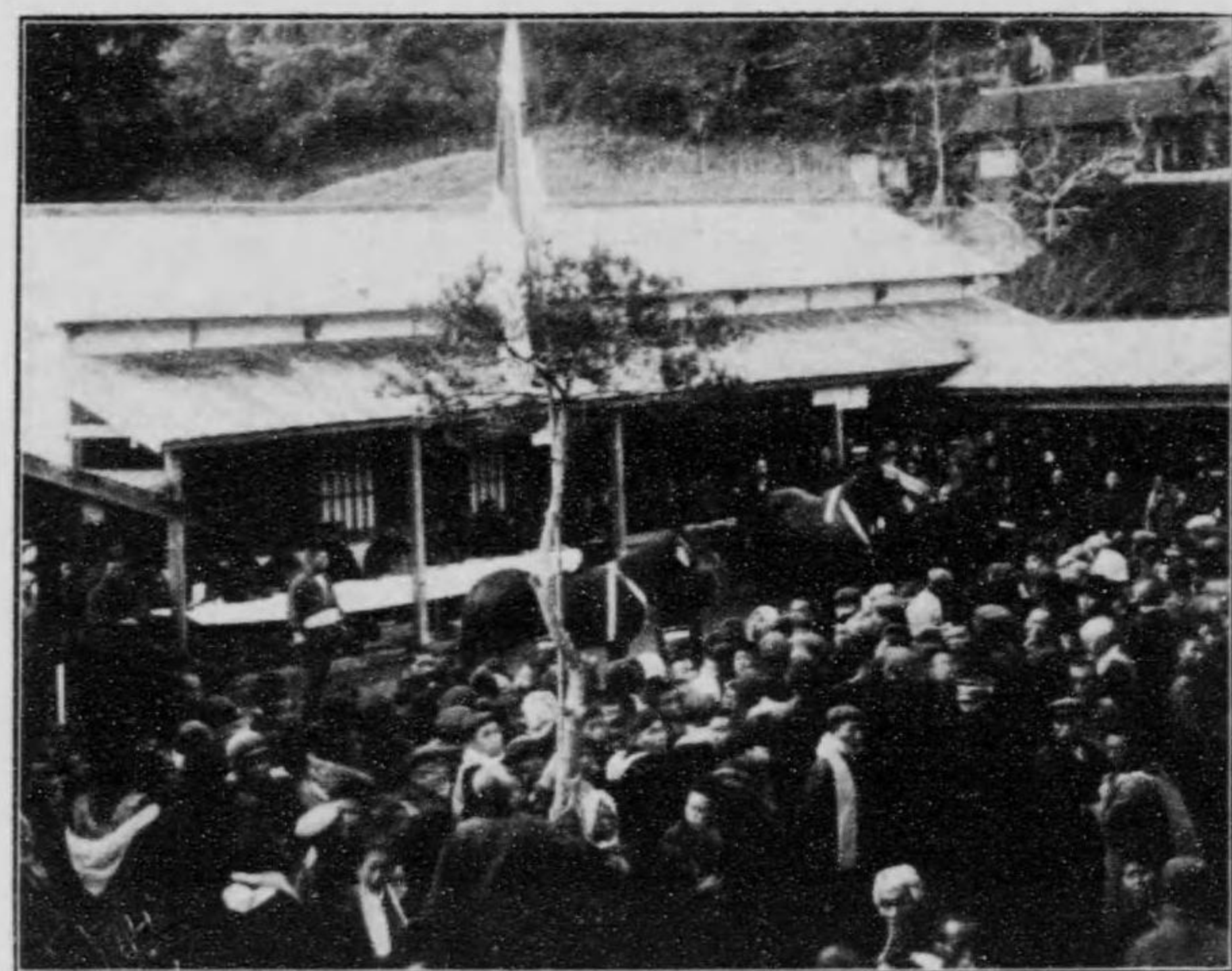
福島縣工業試驗場機業部



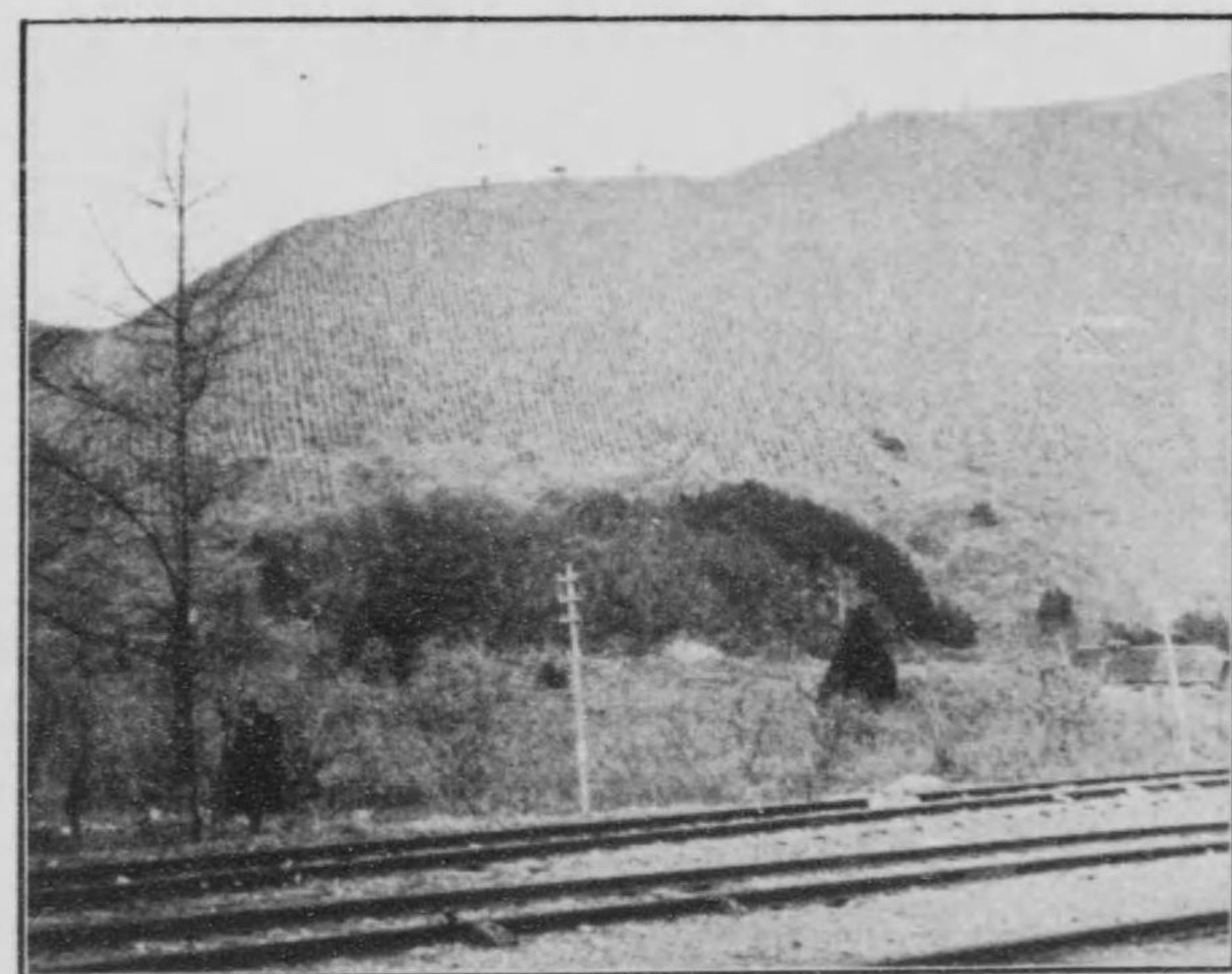
福 島 縣 種 畜 場



福 島 縣 水 產 試 驗 場



三 春 馬 市 場



福 島 縣 模 範 林



福島縣物産陳列館



南會津の天然林



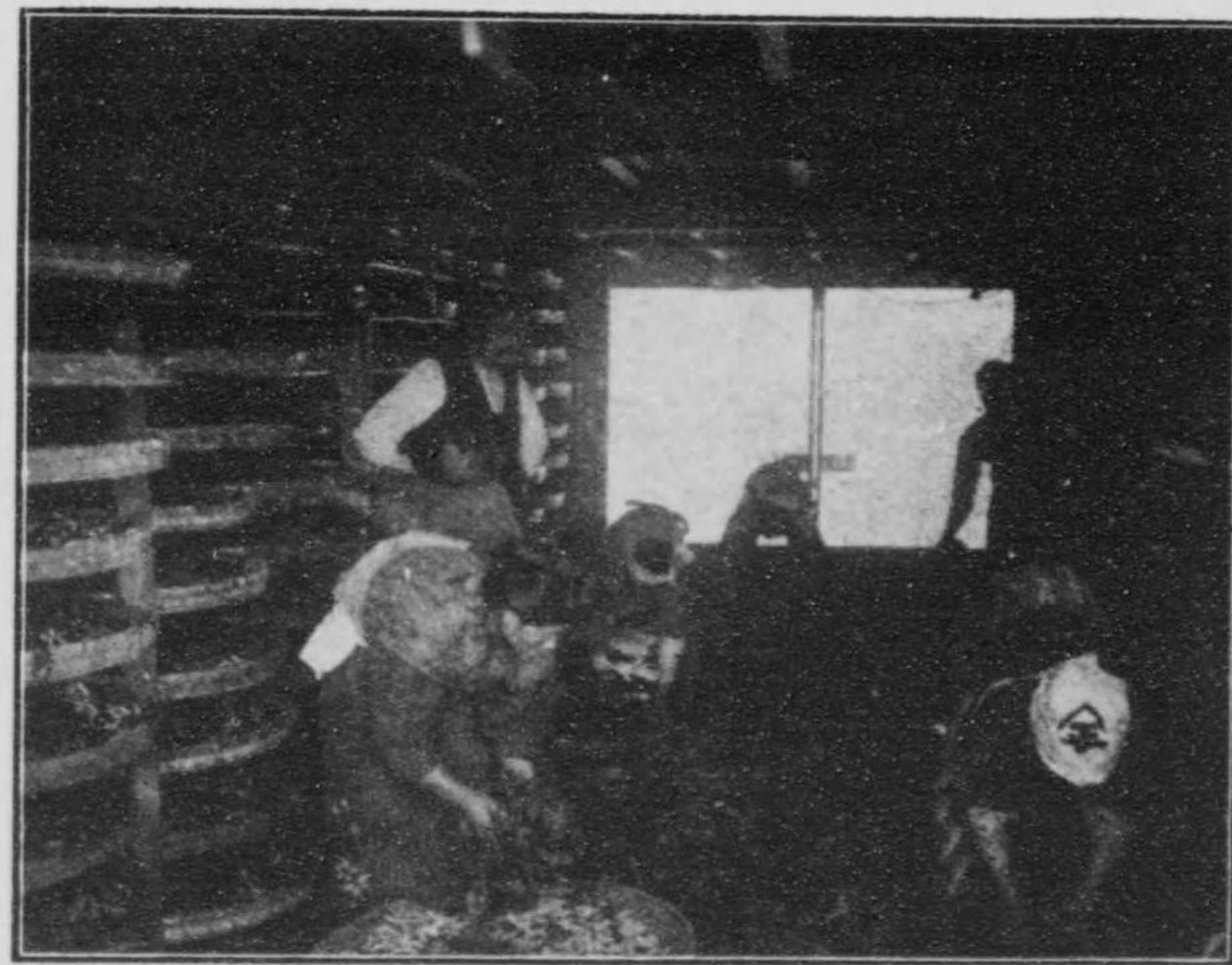
會津燒陶祖の像



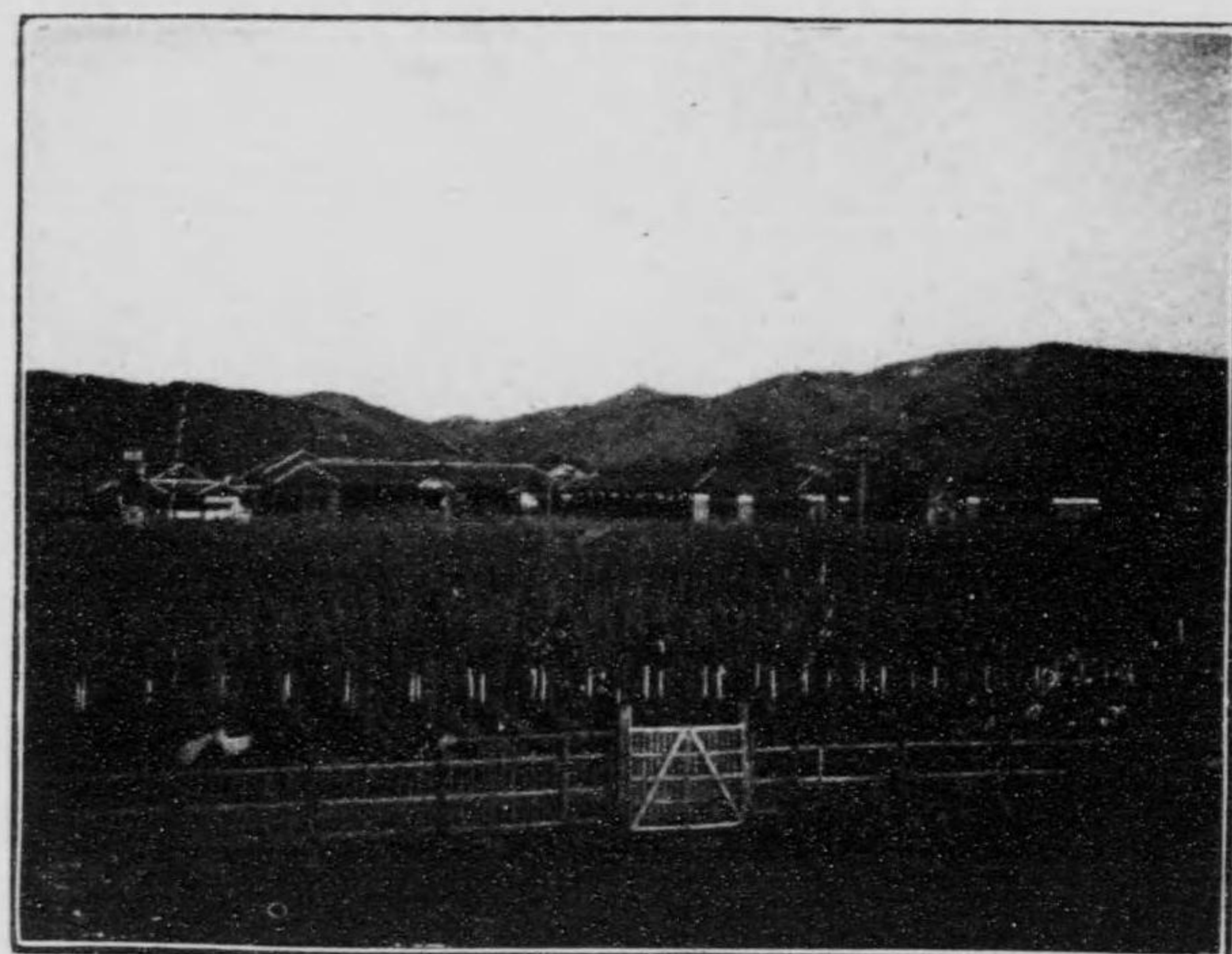
相馬燒窯業場



開成山競馬場



養馬室



福島縣立蠶業學校



伊達郡桑園

福島縣の産業

第一 福島縣の概要

福島縣は奥羽の咽喉たる要地に在り東は太平洋に面し西は新潟縣南は茨城、群馬、栃木の諸縣に接し北は宮城、山形の二縣に境す面積は八百九十九方里十七郡二市を包含す縣内の戸數は十七萬八千餘戸人口約百二十九萬二千餘人にして内男子六十四萬六千餘人女子六十四萬五千餘人なり而して一方里の平均人口は千五百餘人に當る人口増加の割合は明治三十五年にありては百十六萬餘人なりしもの大正元年には前記の數を算し毎年約一萬五千人前後の増加を示せり

廣袤は東西四十里南北三十二里にして地勢上之を東中西の三大部に區分するを得べし東部は太平洋に面する一帯の地にして背後は阿武隈山系を以て中部に境し石城、雙葉、相馬の三郡之に屬し一に之を濱通りと稱す中部は中央山脈と阿武隈山系との間を北流する阿武隈川兩岸の地にして各所に沖積層より成る沃地多し福島、信夫、伊達、安達、安積、岩瀬、西白河、東白川、田村、

正
3. 4. 15
内交

石川の一市九郡之に屬し一に中通りと稱す西部は即ち會津地方にして若松、北會津、南會津、大沼、河沼、耶麻の一市五郡之に屬し中央山脈其周圍を繞りて一大盆地をなす

氣候は東部は溫暖にして冬季も雪を見ること少く西部は寒冷にして積雪多し中部は前二者の中間に位し氣溫の如き東部より低きこと二度西部より高きこと二度なり尙中部の二十年間平均氣象の一斑を見るに平均溫度は華氏五十六度其中最高溫は八月の七十八度最低溫は二月の二度にして降水量は一個年總量千四百〇七耗(坪二十三石七斗六升)を最多とし月別にては最多は八月の總量二百四十六耗(坪四石三斗四升)最少は一月の總量二十五耗(坪四斗五升)なり

地質は東部は概して第四紀新層の壤質砂土及礫質砂土にして處々に砂質礫土第四紀古層の壤質埴土を混し中部に在りては阿武隈川沿岸及附近一帶の耕地は第四紀新層の壤質砂土及第四紀古層の壤質埴土にして田村、東白川、石川、西白河等の山間耕地には第四紀新層の壤質砂土第四紀古層の壤質埴土及片麻岩質壤土等介在せり西部の南端只見川上流の地は秩父古生層礫質第三紀層の埴土等にして越後國境に接する北域は第三紀の埴土又は第四紀古層の壤質埴土等なり耶麻郡より北會津郡に亘りては第四紀新層の壤土礫質砂土第四紀古層の壤質埴土等多く猪苗代湖畔に於ては

第三紀層の埴土及砂質礫土等多しとす

縣下三方面に於ける氣候及地形地質の差異は延て其地方の生業及物産の種類に影響するものあり即ち海産物は東部の特有にして磐城炭として知らるゝ石炭及米穀、馬匹、蒟蒻、繭、生絲、陶器、煉瓦、清酒、羽二重等、亦此地方の産する所なり中部は人口最稠密にして地味肥沃に殊に阿武隈川沿岸の地は桑樹の栽培に適するを以て養蠶業盛なり従て繭、生絲、羽二重等は米穀と共に主要物産の地位を占め其他蠶種、馬匹、煙草、蒟蒻粉、醬油、梨等を産す西部は山嶽多く且つ往時交通不便の爲め自給自足の策に依りたるを以て物産の種類頗る多く就中米穀生絲林産物等其主なるものとす其他漆器、陶磁器、木工品、金屬器、織物、清酒、醬油、藥用人參等を産す

如斯本縣は多種多様な物産を有し而かも其産額多大なりと雖も尙未だ利用せられざる富源尠からず、即ち阿武隈山系及會津西部の山嶽一帶に於ける礦産物林産物の如き殆んど無限の寶庫と謂ふも誇張の言にあらず殊に縣内河流縱横し勾配亦發電に便なるあり現に有名なる猪苗代水力電氣株式會社を始め十餘個所の水力電氣起業あり將來益之を各種の事業に利用するに至らば産業の發展に資すること甚大なるべきは疑を容れず

第二 主要物産の梗概

福島縣は地勢風土の複雑なる丈各種の物産に富み現今一個年の産額總計七千六百萬圓に達す之を類別すれば農産物四千四百六十四萬餘圓工産物千八百七十三萬餘圓鑛産物四百七十四萬餘圓林産物四百四十五萬餘圓水産物二百〇五萬餘圓畜産物百七十四萬餘圓等なり而して是等の産物中年産額百萬圓以上のものを算すれば米、繭、生糸、酒類、石炭、輸出羽二重、麥、大豆、各種織物、果物、魚類、醬油、木材、木炭、馬鈴薯の十五種あり

第三 各種産業の概況

一、農 業

福島縣の全面積は百十七萬一千七百餘町歩にして其中耕地は十八萬二千八百餘町歩を占め總人口百二十九萬二千餘人中農業人員六十一萬五千餘人にして約其半数に當れり而して一個年に生産する農産物の總額は四千四百萬圓餘に上り縣産業上最も重要な地位に在り之れが消長は縣經濟に影響するところ甚大なり農作物中穀類の普通作物は多少の差あるも到る處産出せざるなく特用作物としては會津地方の藥用人參田村、石川の煙草石川、東白川の蒟蒻の如き其名頗る顯る果樹は、梨、苹果、櫻桃、柿、葡萄等近年長足の進歩を示し又養蠶業を始め産馬養鶏等の副業も逐年其歩を進めつゝあり大正元年に於ける農事調査の一斑を記すれば左の如し

(1) 自作小作耕地區分

福島縣の産業

福島縣の産業

地目	自作	小作	計
田	六、七、五、九町	三、四、四、四町	九、七、一、〇、三町
畑	六、二、〇、八、六町	三、三、六、五、二町	八、五、六、七、一町

(ロ) 農戸及人員

區別	專業自作	專業小作	兼業自作	兼業小作
農戸	六三、〇八〇戸	三三、二八七戸	一三、五五九戸	一三、三七七戸
人員	三、七、三、三〇人	一、六、九、九四五人	六、三、五、四〇人	四、四、八、六九人

(ハ) 耕地所有分配の状況

所有者數	五十町歩以上	十町歩以上	五町歩以上	三町歩以上	一町歩以上	五段歩以上	五段歩未満	計
同	八、五、〇	同	同	同	同	同	同	一、二、〇、九、九四
同	五二	三、〇、六、九	九、八、〇、三	三、七、四、三三	三、〇、一、六、九	三、九、六、〇〇		

(一) 穀菽類 米の二十年産額は約百三十萬石にして總人口百二十九萬人に對し一人一個年の消費量

を一石として計算すれば殆ど剩すところなしと雖も會津、安積、西白河、相馬、雙葉地方の産米は東京市場に販出して好評を博し殊に前記各地の當業者は米穀同業組合を設置し輸出米検査を施行するを以て市場の聲價漸次上進しつゝあり販出額は十五萬石に達す而して麥類は三十七萬石に上るも縣内の消費量の多額なるを以て未盛に販出するに至らず豆類は産額多からざるも品質の優良なる稀に見る處なり

(二) 園藝作物、園藝作物中蔬菜は會津地方を主産地とす種類は豌豆、蠶豆、甘藷、馬鈴薯、里芋、薑、大根、胡蘿蔔、牛蒡、葱、漬菜、蕪菁、茄子、南瓜、甜瓜、西瓜、百合等にして果樹は梨、桃、柿、苹果、櫻桃、葡萄等なり就中身不知柿は會津の名産にして核あるもの少く肉豊かに味甘美なるを以て樽拔として東京其他の各地に販出す伊達、信夫、安達等に産する干柿も亦品質良好を以て名あり殊に近年岐阜、山梨の兩縣より教師を聘し枯露柿製造の改良に努め成績佳良にして漸次都人士の嗜好に適するに至れり梨は信夫郡笹木野に産するもの其味殊に良好にして販路は南は大坂より北は北海道に及び近年英領加奈太及浦鹽に新販路を開き好評を博したるは斯業の將來に一段の光采を放てるものといふべし栽培面積百五十町歩樹數七萬本一個年の産額六十五

萬貫價額十五萬餘圓の多きに達し去る明治四十二年 聖上陛下の尙東宮に在らせられ東北に行啓せらるや笹木野梨園の隆盛を聞き召され特に侍従を派遣せられ實況を調査せしめられたり櫻桃及桃は福島市附近を中心として産出し東京其他各地に販出し栽培反別も年を追ふて増加せんとするを以て福島市は獨り生糸の集散地たるのみならず近き將來に於て果物市場たるの日あるに至るべきか

- (三) 特用作物 特用作物の主なるものは蕪、蒟蒻、桑苗、煙草、藍、大麻、苧麻、楮、繭、薬用人參等にして蕪、大麻、苧麻、人參は會津地方に産するもの最も多く殊に人參は會津の特産として名あり當業者は同業組合を組織し之が粗製を防遏し且つ其改良を圖りつゝあり煙草は田村石川の松川葉東白河の水戸葉共に品質良好を以て聞ゆ蒟蒻は東白川、石城、石川等に産し奥羽各縣及び東京茨城大阪等に販出す桑苗は専ら伊達、安達、信夫、安積、田村の各郡に産す
- (四) 耕地整理 本縣の地勢は到る處山嶽の起伏するあり平野の稍大なるものは僅かに會津盆地中の阿賀川沿岸及中通り阿武隈川兩岸の平地にして沿海地方にも小區域の平地散在する外他は皆山間に局在する狭小なる平地に過ぎず従つて一筆の田面積頗る小に肥培耕耘等不便少からざりし

を以て三十八年以來極力耕地整理に努め既に竣工したる面積一萬七千二百二十町歩あり縣は其工事に對し補助費を給し其他測量製圖は縣之を負擔し或は書類の調製を指導し整理に關する諸般の便宜を與へつゝあり

二、蠶絲業

福島縣は氣候風土最も蠶に適するを以て其起源は遠く一千年前にあり爾來隆替なきにあらずと雖も漸次發達して今や本邦屈指の蠶地となり桑園反別は全國各府縣中の首位に居り産繭價額は約九百十萬餘圓に上り米穀に亞ぐ主要物産たり而して之に加工して生絲となし又蠶種を製造して販出するを以て蠶業に因りて獲る處の金額は一千萬圓を越ゆる巨額に達す之を以て斯業の盛衰は農業の消長と共に本縣經濟上に及ぼす影響頗る大なりとす是に於て縣は郡立其他の蠶業講習所に對し一個所金三百圓を補助し蠶業者三十戸以上共同して教師を聘したる組合には一組合毎に五十圓以内を給し製絲業者にして技術者を傭聘したるものには給料二分の一以内を補助する外常に講話會講習會等を開催して奨励に努め當業者の活動と相俟て斯業の改善を圖りつゝあり

(一) 桑園桑樹の栽植は縣下到處適せざるはなく殊に阿武隈川沿岸地方を最とし一反歩三百貫餘の桑葉を採取するを得べしと雖も全縣に平均すれば一反歩百三十貫餘に過ぎず桑園總面積は四萬一千町歩餘にして早中晩各種の栽植割合は早生二分餘中生四分餘晩生三分餘なり而して桑樹の種類は多種なりと雖も主なるものを擧ぐれば早生にありては市平大葉、中生にありては赤木、柳田、島の内、八平次、鶴田多きに居り晩生にては小幡、高助、六之丞、十文字等なりとす仕

立方は中通及濱通りは根苧又は中苧多く會津地方は高木仕立多し

(二) 養蠶 福島縣に於て養蠶の最殷賑なるは阿武隈川沿岸に位する伊達、安達、信夫、田村、安積の諸郡にして濱通り及會津地方之に亞ぐ養蠶戸数は去る三十六年には春夏秋蠶を通じ十二萬八千餘戸なりしに大正元年には十三萬五百餘戸に増加し三十五年掃立枚数は二十五萬〇九百餘枚收繭量十七萬四千七百餘石なりしもの大正元年には掃立枚數二十五萬五千餘枚收繭量二十二萬餘石を示せり

種類は其數多しと雖も漸次統一の傾向あり現在に於ける春蠶は伊達錦最も多くして百分中四〇、〇〇を占め又昔は二五、〇〇青熟は一五、〇〇其他は僅に名を存するのみ夏蠶は青熟最も多く川内之に亞ぎ秋蠶の過半数は青熟なりとす
飼育法は剉桑育に依るもの最も多數にして近年漸次全芽育を行ふもの増加せり信達地方は大抵掃立より三十四五日にして上簇し中通南部及濱通り地方は三十六七日を要し會津地方にては四十二三日に亘るものあり由來信達地方は高温育の稱ありしも事實は世評の如くならず近年補温の度を減じ七十二度を標準として飼育せり

現今郡及蠶糸同業組合に於て經營する蠶業講習所六個所あり其他組合を設けて養蠶教師を招聘したるもの百餘個所に上り荐りに斯業の研鑽に努力しつゝあるを以て將來益其發達を見るを得べし

(三) 蠶種製造 本縣に於ける蠶種製造は養蠶と共に其創始頗る古く往時より蠶種の本場として名聲を内外に博し逐年隆盛の域に向ひつゝあり而して春夏蠶種製造額は大なる増進を爲さずと雖も秋蠶種は著しく増加せり秋蠶の増加は蠶業の大勢と謂ふべく殊に本縣内には各地に適當なる自然の風穴あり之に加ふに人工の氷室を以てし秋蠶種の貯藏に尠からざる便益を與ふ而して春夏秋蠶種の製造額は年々増加の趨勢にありと雖も蠶種の製造家數は却て減少の傾向あり殊に三十

八年蠶病豫防法實施以來副業的經營者は淘汰せられて其數大に減じ現在製造家は千二百戸に滿たす之を十年前に比すれば一割四分餘を減じ漸く専門的に經營せらるゝに至れり蠶種製造戸數は一化性七百八十二戸二化性千二百二十戸一化性秋蠶製造者三十四戸にして其掃立蠶量は一化性二十五貫三十二匁二化性十九貫四百五十九匁一化性秋蠶百九十七匁なりとす而して各種蠶種製造家數を合算すれば二千餘戸に上るも一戸にして各種の蠶種を併せ製造するものあり其實數は千二百戸に達せず生産價額は約九十餘萬圓に上ほり販路は宮城縣を第一とし山形、新潟、巖手、茨城、栃木其他二府三十一縣に亘れり

(四) 製糸業 本縣に於ける製糸業は大別して機械製絲及坐繰製絲の二種とし坐繰製絲は更に其設備と生絲整理方法の差異とにより捻造及折返造りの二種とす折返造りは一に之を掛田絲と稱し其名内外に喧傳し捻造は多くは會社又は個人の營業として原料を購入し農家の婦女に賃繰せしめ之を一定の工場に集めて整理し販賣するものにして専ら中通り南郡の各郡に行はる折返は養蠶家自ら生産したる蠶繭を製絲して之を仲買又は問屋に販賣するものにして信達二郡は多く此法に依る而して之が購買者は福島共同生絲荷造所に依託し品位を鑑別して各等級を定め以て海外

又は内地に販賣す此自宅製絲は戸數最も多く産額も亦各種製絲中第一位に在り其他足踏製絲を爲すものあるも其數多からず

玉絲は明治四十一年福島玉絲株式會社に於て二百人繰の工場を設け盛に繰絲しつゝあり其他は概して賃繰法に依り主として福島市及信夫、伊達の二郡に産す今製絲工場數を記すれば左の如し

區 別	十人繰未満		十人繰以上 五十人繰未満		五十人繰以上 百人繰未満		百人繰以上		計
	機械製絲工場數	坐繰製絲工場數	機械製絲工場數	坐繰製絲工場數	機械製絲工場數	坐繰製絲工場數	機械製絲工場數	坐繰製絲工場數	
機械製絲工場數	一五	—	四三	—	七	—	—	—	六
坐繰製絲工場數	一七、一五二	—	三	—	九	—	—	—	二七、一〇三
玉絲製造工場數	二、六九九	—	—	—	—	—	—	—	二、七〇〇

前表坐繰並に玉絲製造工場數に於て十人繰未満のものとは總て自宅製絲なり而して五十人繰未満の小工場は漸次減少し五十人以上の工場増加する状態を示せり縣内生産生絲數量は約十五萬餘貫匁價額約八百萬圓内外なり其中機械製絲は凡て一割五分を占め他は皆坐繰製絲にして玉絲は

約八千貫匁を生産し此價額三十一萬圓内外なり
 (五)眞綿、眞綿は各郡到る處に産するも産額最多きは伊達郡にして袋眞綿は其特長とする處なり本縣眞綿の名聲全國に冠たるは産額の多きに因るべしと雖も其色澤の美麗なると粘伸力の強き等他に卓越する長所あるに由るもの多し

三、工業

福島縣の工業は近年の發達なるも其生産額は縣内總生産の約三分の一を占む而かも従業人は僅かに五萬人を出でず前途發達の餘地頗る多し各種工業中輸出羽二重、製絲、耐火煉瓦、紡績、化學工業等を除くの外は概ね農家の副業經營に屬す明治二十七八年、三十七八年兩戰役後に於ける事業勃興の餘波は副業組織の工業をして漸次工場組織に移らしむるの傾向を現じ二十三年頃には工場組織のもの僅かに二三個所に過ぎざりし者二十九年前後には七八個所となり三十四五年頃は一時消沈の姿を呈し四五個所に減じ四十年頃には一躍して二十三個所の企業を見るの盛運に會し爾來逐年増加の趨勢に在り由來本縣は工業原料としての鑛産、林産、農産に富み剩へ地勢の然

らしむる處水力電氣を起すに適する河流多きを以て將來工業地として大に發達するの餘地甚乏しからず加之近年東北の地水害凶作荐りに臻り經濟の基礎を従前に比しより多く工業の上に置くを安全とせずとは一般人民の期せずして一致する歸趨なるを以て今後の發達の著しかるべきは豫想するに難からず

(一)絹織物 絹織物の大部分は輸出羽二重にして其産額年に依り多少の差なきを得ざるも四十萬本乃至五十萬本に及び此價額四百餘萬圓に達す羽二重の創始は數百年以前に在り初め内地向並巾輕自物の製織を主とせしが海外輸出の途開くると共に廣巾輕目物を織出し産額も亦増加せり主産地は伊達郡を最とし相馬、福島、雙葉の各郡市之に亞ぐ從來専ら家内工業として手織機に依りて製織せられしも近來漸く家内工業の數を減じ工場組織の機業各地に起り現に五十餘個所凡そ三千臺の力織機を算するに至れり而して其製出する所の羽二重は所謂川俣羽二重と稱し目付は三匁乃至四匁の間に在り幅は尺五より三尺六寸迄廣狭一ならざるも近時は廣幅ものゝ需用漸く多し特長としては原料の精良なると織耳の整齊せると染付の良好なるとなり其産額の多き丈縣經濟に關すること少かざるを以て當業者は同業組合を設けて粗製濫造を防遏し縣は精練した

る羽二重に對し羽二重検査所をして検査せしめ等級を附し検査印を押捺して縣外搬出を許すが故に本縣羽二重の信用益、厚きを加ふるに至れり羽二重の精練所は福島に一個所川俣に二個所小高に一個所あり羽二重検査所は川俣に本所を福島、小高に各支所を置く
斜子及紹織八橋等は主として若松市に産す紬太織は安達、信夫地方の産する處にして出穀、上り繭等より纖維を抽出し製織するものなるが故に光澤美ならずと雖も其耐久力頗る強し一疋の價は十圓前後なり而して其製織は概ね家内工業にして自營又は織元の委託を受け婦女子の内職として従事す

節絹は一に福島絹と稱し主として福島市及信夫郡より産出し其産額毎年約十萬元價額三十餘萬圓に達し生絹の儘京都及び東京に販出せられ絞り若くは捺染加工を施したりしが近年産地に於て染色を爲し著尺物若くは裏地用として販賣を試むるものあり其需用漸く多し次に之が原料たる玉絲は福島市及信夫郡の特産にして地方に供給し尙餘りあるを以て盛に之を他に販出す

(二)絹絲紡績 絹絲簡紡は安積郡郡山町に於ける郡山絹絲紡績株式會社の生産する所にして一個年約十八萬九千餘貫匁を産し此價額二十二萬二千餘圓に達す

(三)綿織物 綿織物は一に會津木綿と稱する綿物及織物を主とし一個年産額約四十一萬一千反此價額凡三十三萬圓にして若松市の産出最も多く河沼郡、耶麻郡、大沼郡等之に次ぐ其他各郡多少の産出なきにあらざるも大部分は家用に供するに過ぎず製造戸數は約七千餘戸其中工場五六個所の外は多くは農家の副業として製織し若くは織元の委託を受け賃織を營むものとす

原料は専ら鐘ヶ淵紡績會社製の紡績糸を用る製品は縣内を始め秋田、巖手、宮城、青森の諸縣並に北海道へ販出す

(四)漆器 漆器の産出最も多きは若松市にして耶麻郡喜多方町之に亞ぐ所謂會津漆器と稱するものはなり専ら飲食器及家具等を製造し一年の産額七十萬餘圓に達す其中裝飾品は僅かに二十萬圓内外に過ぎず製造者は惣輪師塗師蒔繪師等各分業の方法に依る各家内工業として之を營む製造戸數は四百餘戸職工數約千三百を算す製品は瀝下地を用ゆるを以て頗る堅牢なると金粉蒔繪の巧妙なるとは共に其特色とする處なるのみならず價格亦低廉なるを以て需要甚だ多し其販路は東京を主とし關東、奥羽、北海道、新潟縣之に次ぎ近年九州地方に販出するものあり榛地は板物は専ら朴材を用る丸物は山毛櫨を主とし會津西南部の山間より産出す丸物榛地は従來手挽の

みを用る来りしも榛地挽機械の發明以來之を使用し充分乾燥して髹漆を施すを以て歪みを生ずる憂なし

(五) 陶磁器 陶磁器製造の原料に供すべき木節、蛙目、長石、石英粗面岩等は縣内各地に散在し其量甚だ乏しからず而して現に堀取りて使用し居るものは僅かに其一部分に過ぎざれば陶磁器業の將來は充分發達の餘地あるものと云ふべし現今産額最も多きは會津燒にして相馬燒之に次ぎ其他棚倉の鹿の子燒等あり一個年の産額約三十萬圓に達し製造戸數二百餘戸職工九百人窯數九百餘個を算す會津燒は大沼郡本郷町及之に隣せる北會津郡川南町に産するものと總稱にして原料豊富品質亦良好なるを以て製品頗る堅牢なるのみならず一度燒にて燒成し得るが故に價格亦低廉に需要多し製品の種類は家具飲食器及小形の蓋物等大部分を占め外に輸出向土瓶を製作す近來電氣業の勃興と共に碍子碍管等の需用激増し現在産額の殆んど半を占め從て技術も亦大なる進歩を示し高壓碍子をも製造するに至れり

相馬燒は相馬郡中村町又雙葉郡大堀村産の總稱にして一に駒燒又は「ひと」燒と稱するもの是なり専ら飲食用具、家具類を作る形態一種の風韻を帶び愛すべきものあると能く火力に耐ふる特

性を備ふるが故に家庭用として歡迎せられ雅客の眷顧を惹くに足る

鹿の子燒は東白川郡棚倉町に産し近年の創業なるに拘はらず原料の品質佳良なると製法に改善を加へたるとに依り色澤皓白美麗大に世の嗜好に投じ産額も漸次増加の趨勢を呈せり

安達郡二本松萬古として知らるゝ茶器の如き品質の堅牢なるあり岩瀬郡安積郡の飲食用器の如き價格の低廉なるありと雖も産額未だ多額に上るに至らず

其他白虎燒は若松市に産し又福島市には窯業の新起業を見るに至れり本縣陶磁器の販路は殆んど全國に周しと雖も就中東京を第一とし關東地方、奥羽地方、大阪、静岡、長野、新潟の各府縣及北海道順次に次ぎ海外にては米國を主とし濠洲、新嘉坡、印度等之に次ぐ支那にも多少の輸出を爲す

(六) 煉瓦及瓦 煉瓦及瓦は其産額五十萬圓に達し其中石城郡の産出最も多く三十三萬圓を占む殊に耐火煉瓦は其特産にして平町及湯本に工場あり品質の佳良なる他に比すべきもの少なし煉瓦及瓦の製造工場は規模の大小一ならざるも其數百三十七個所あり縣内及近縣各地の需要を充たし耐火煉瓦は陸海軍工廠、鐵道院、九州若松製鐵所及東京附近各工場北海道東北各地の鑛山等に

販賣せり

(七) 製紙 製紙は農家の副業として縣内各所に於て經營し製造戸數一千三百戸あり其中會社組織にて營業するものは西白河郡、白河町に在る東北製紙合資會社あるのみ製品の種類は美濃及半紙を主とし各種の紙を製造す産額合計三萬餘緡二十五萬圓なり其他伊達郡よりは蠶卵臺紙を産す産額約一萬圓専ら地方蠶種製造家に販賣す又紙製品としては福島市より合羽及種紙煙草入を産す種紙煙草入は蠶卵紙の廢物を利用し製するものにして其質強靱使用久しきに亘るも破れず能く煙草の過度の乾濕を防ぐ特長を有す一個年約一萬餘個價額三千餘圓を算し多くは縣内及他の奥羽地方に販賣す

(八) 清酒 清酒は本縣工産物中生絲羽二重に次ぐ重要な物産にして年産額は凡十一萬石價額約五百餘萬圓に達す而して製造場數は三百五十にして就中若松市の場數二十九石數一萬六千石を最とし石城郡の一萬四千石耶麻郡の一萬二千石之に次ぐ各地とも用水清冽にして穀質佳良從て製品亦醇良なるを以て奥羽各縣北海道、茨城、東京、大阪等に販出し釀造に關する技術の改善と共に販路も亦漸次擴張の傾向あり

(九) 醬油 醬油は縣内各地に産し若松、石城、西白河は年額五千石以上を産し福島、信夫、伊達、安達、岩瀬、耶麻、田村、相馬等の各都市は二千石以上づつを産し總計四萬三千石價額約百三十萬圓に達し大部分は縣内に於て消費せらる味噌は若松市より産するもの味佳良にして會津味噌を以て稱せらる原料大豆は多く地方産を用ゆれども巖手、青森、栃木、北海道産のものを用ゆる數量亦少からず

(一〇) 疊表及蕨産 疊表類は多く農家の副業として經營するところにして産額の最も多きは耶麻郡の一萬圓にして之に次ぐは安達、石城の五千圓とし縣内總産額は二萬八千餘圓に上ほり専ら縣内に於て需要せらる

(一一) 金屬製品 金屬製品の主なるものは刃物打物にして若松市喜多方町等に産する林業用鋸は其産額最多く盛に奥羽、北海道等に販出す又若松市の煙管銀細工等亦名あり刃物は縣下各地に於て之を産し鑄物は安積郡日和田鐵工場其他に於て之を製す殊に須賀川の鐵製茶卓は其産額多からずと雖頗る雅致に富み騒客の賞賛を博せり

(一二) カーバイト 安積郡郡山町日本カーバイト株式會社郡山工場に於て製造せらるゝカーバイト

は年産額百四十五萬磅此價額約六萬五千圓なり該工場の創設は明治三十九年にして十五馬力の電動機を用ひ原料は田村郡東白川郡等より産する石灰並に木炭を使用す田村郡の石灰は大瀧根山より産す同山は殆んど全山石灰岩なるを以て無盡蔵と云ふも過言にあらず木炭の産額亦豊富なり製品は關東關西奥羽及び朝鮮等に輸出す其他近年伊達郡長岡村にカーバイトの製造を始め其産額漸次増加しつゝあり

(三)度量衡 本縣度量衡器の産地は福島市及若松市にして其材料の佳良なると産額の饒多なるを以て聞の産額は量器六萬七千個衡器一萬四千個に度器を加へて合計價額約三萬圓を上下す量器の材料は大抵縣下南會津郡産の檜と同郡及耶麻郡産の樺を用る斗概は會津地方産の櫻及斧折を用ひ唯木製桿秤の桿に使用する黒檀は東京に樞は宇都宮地方より購入す本縣産度量衡器の需用多き所以は製作技術の進歩と材料の良好なるに由るところ多し

四、畜産業

本縣は峰巒起伏の間河川縱横に貫流し所々肥沃なる平地を成し良牧草に乏しからず殊に田村、東

白川、西白河、石川、雙葉、耶麻の各郡の如き地形地味等馬匹の放牧に適するものあり古來名馬を産する亦故なきにあらず由來本縣は産馬地として如此大なる天恵を有し加ふるに當業者の熱心之が改良蕃殖を圖るあるを以て年を逐ふて良好なる成績を示し縣内毎年の生産馬匹は約一萬五千頭價額七十餘萬圓に達せり

産牛及養豚は創始日淺く未だ成績の見るべきなしと雖も熱心斯業の普及に努め耶麻、大沼及石城郡の如き既に産牛組合を組織し年次蕃殖しつゝあるを以て他日の盛運を期するに足る

(一)馬 本縣馬匹の種類は内國種五萬二千餘頭雜種二萬餘頭外國種八百餘頭合計七萬五千頭にして之を十年前に比すれば内國種にて三萬三百餘頭を減し雜種にて一萬九千頭を増し外國種にて八百餘頭を増したり之を要するに内國種の馬匹は漸次減少し之に代ふるに雜種外國種を以てするの趨勢にして一面馬格上進の程度を窺ふに足る而して是等の販路は縣内各郡の外多くは關東關西地方なりとす

馬匹の驪賣に付したるもの大正元年に一萬三千九百餘頭此價格六十七萬圓一頭平均は四十八圓にして十年前に比すれば一頭平均價格二十五圓の増進を示せり

(二)牛 本縣に於ける牛の使用は極めて僅少にして飼養頭數二千餘頭なり之を既往十個年に比すれば千頭の増加を示し六十戸に付約一頭を飼養する割合なり而して其種類は内國九百八十八頭、雜種千百十八頭、外國種百頭十年前に比し大に増加したるは雜種にして内國種は僅かに増加し外國種は却て減少せり一個年の産牛數は内國種四十八頭、雜種二百九十四頭、外國種三十三頭計三百七十五頭なり

(三)豚 豚は内國種六百八十九頭、雜種千四百六十二頭、外國種三百七十五頭計二千五百二十六頭一個年の生産頭數は内國種三百八頭、雜種千二百二十頭、外國種百六十六頭、計千六百九十四頭なり之を十年前に比すれば約三倍の激増を示し食肉の需用増進すると共に養豚數も亦増加するものと如し

(四)家禽 は各郡飼養せざる所なきも就中盛なるは石川、若松、白河、石城、岩瀬、相馬、雙葉の各郡にして主なる種類は「レグホーン」「ミノルカ」「アングルシヤン」「ブリマウスロツク」「名古屋コーチン」雜種等にして其他少數の愛翫用のものあり飼養戸數は約十萬戸成禽三十八萬八千羽雛二十萬八千羽價額約二十七萬餘圓に達し産卵個數は二千七百三十餘萬個此價額五十萬圓にし

て逐年増加の傾向を示せり

五、林 業

本縣森林原野の面積は凡百十七萬四千餘町步にして總地積の九割一分餘に當る内民有林は約六十二萬五千町步を占め其他小面積の御料林を除く外全部國有林なり林野總面積は耕地面積の六倍四分にして農家一戸平均九町四反步餘に相當し單に民有林野のみにては耕地面積の三倍四分に當り一戸平均五町步餘に上ほれり又以て本縣林野の豊富なるを知るに足るべし而して本縣は森林植物帶上溫帶に屬するを以て樹種極めて多く主なるものは松、杉、檜、栗、山毛櫸、扁柏、櫟、樺、落葉松、厚朴、羅漢柏等にして殊に赤松は到る處に生育し中部と濱通りとの境界に聳ゆる山脈は概ね赤松林を以て蓋はれ津島松、岩瀬松等夙に東京市場に其名を馳するものあり近時天然林の蓄積額は漸次減少して所々に禿山草野を見るに至れりと雖も尙總額凡一億七千餘萬尺を算するは又夥多なりと云ふべし然りと雖も人口の増加と世運の進歩とに従ひ木材消費量の増進するは自然の數なるを以て之れが補給の策を樹て將來需給の均衡と保たしめんが爲め目下盛に殖林事業を獎勵し

縣に於て縣苗圃縣有模範林の經營を爲すの外郡設苗圃及郡市町村、個人の造林に對し補助金を交付し其講話講習等を開設して林業に關する智識の普及を計れり

森林副産物の主なるものは石材、土類、下草、萱、樹實、樹皮、菌茸、自然生蔬菜、等にして其他十數種に上る而して石材の産出は西白河郡を第一とし岩瀬、北會津等之に次ぐ岩種の多くは硬砂岩、花崗岩及安山岩にして田村郡よりは大理石、石灰岩石川郡よりは長石、石英其他各種の礦石を産す樹實は栗、櫟、胡桃、栃櫂等菌茸は椎茸、濕地茸其他雜茸なり自然生蔬菜は蕨、紫蕨等にして獨り縣内の需要を充すのみならず縣外に販出するもの少からず

林産加工物は木炭、製板、榛地、農具、下駄材、經木、松煙、燐寸柚木、木蠟等あり製炭は專業又は農家副業として是を營み原料には櫟、榎、槲其他の雜木を用ひ伊達、安達、安積及會津の各郡は多く白炭を出し其他の諸郡は概して黒炭を製す年産額は凡百二十萬圓に達し販路は縣内及關東地方を主とす其品質は先年以來縣に於て製炭教師を聘し各地に講習會を開きしより著しく上進せり

製板は電氣汽力又は水力を利用し縣内百二十餘個所の製材所に於て製せらる原料は主として松、

杉、椈等を使用し年産額は丸及角材約六十六萬尺、椈材二百萬坪價額合計三百七十萬圓に達し地方の需要を充たすの外東京方面に輸出す

榛地は會津漆器の原料として其需要多く南會津、耶麻、大沼、安積、岩瀬、信夫、の各郡の山間より之を供給す就中耶麻、南會津は其主たるものにして現に榛地挽に従事する者南會津郡耶麻郡を合せて二百五十餘戸年産額二萬五千餘挽に達す

下駄材として桐の栽培は各郡に行はるゝも特に只見川沿岸最も盛なり其他天然材中栓、澤胡桃、楡赤楊等も亦用ゐらる然るに以上の材料は年々不足を告ぐるに至れるより近時松材又は厚朴材を使用する者あり各種下駄材年産額の合計は三萬餘圓にして縣外に輸出するもの少からず其他農具としては鋤柄、槓、家具として杓子篋曲物等を産するも其額多からず燐寸、松煙、經木、製蠟の如きは市場の狀況に依り時に消長あるを免れず

六、鑛業

本縣地層の大部分は火山質より成り石英粗面岩、安山岩、花崗岩等の散在するもの多く鑛脈の分布

亦頗る豊富にして到る處金、銀、銅、其他の金屬を産す沿海地方第三紀層中には石炭の産出多く殆んど無盡藏と稱せらる故に鑛山業を営むもの逐年其數を増し重要な鑛山のみを算するも十有三四に達し東北六縣中秋田に次ぐの盛況を呈し現に經營しつゝある半田、高玉の金銀銅山、加納金銀銅山八基銅山及沼尻、吾妻の硫黃内郷、小野田好間、三星王城の諸炭山の如き何れも嶄新なる機械を使用し盛に事業を営みつゝあり又最近鑛山業の一個年産額は約五百萬圓の巨額を示せり

七、水産業

本縣の東方太平洋に面する海岸線は延長三十六里に達し小名濱、江名、四倉、久ノ濱、請戸、原釜等は最も有名なる漁港にして漁獲頗る多し殊に本縣近海は寒暖二潮流の交叉するあり爲めに寒暖兩流に産する魚族蕃殖し就中鰹の漁獲は一個年八十餘萬圓に上ほり鯖、鮫の類之に次ぐ漁獲物は常磐線に依りて或は東京方面、宮城福島方面等に販出せり又中通及會津は海を距ること遠く海産鮮魚の供給不便なるを免れざるも幸に一萬四千町歩の湖沼と二千町歩の養鰹田あり淡水産魚類に乏しからず而して水産物の年産額は年に依りて差あるも漁撈養殖約百萬圓製造物八十餘萬圓内外と

す漁業總戸數は四千戸人員一萬二千餘人にして江名、小名濱は戸數人口最多く四倉、久ノ濱之に次ぐ

海産物中最も多きものは鰹にして鰹節の製造亦從て盛なり漁業組合に於ては教師を聘し鰹節傳習所を開設するものあり縣は之に對し補助金を交付し獎勵する所あり品質改良の跡著し鰹鮓等の漁獲も十餘萬圓に上ほり其他鯛、鮭、鮫、鱒、鱒、秋刀魚、雜魚の類及鮑、北寄、牡蠣等の介類及海藻の産亦少からず殊に相馬郡新田川の鮭は一個年一萬圓以上の漁獲あり其他雙葉郡請戸川、石城郡夏井川等に於ても其地漁業組合の人工孵化場を設けて鮭兒を放流するものあり

淡水漁業にありては鯉鮎を主とし海岸地方の浦には鰻を産す其他縣事業として明治四十一年度より猪苗代湖岸川桁に人工孵化場を設け鱒、姫鱒、紅鱒の卵を孵化して猪苗代湖檜原湖土湯沼等に放流して之が蕃殖を圖りつゝあり

製造品の主なるものは鰹節、乾鮑、北寄、水煮鱒詰、其他雜魚鱒詰、乾北寄、寒天等にして産額は年々増加せり又鰹節製造の副産物として荒粕産額亦多し

第四 産業上の施設

一、實業團體

- 一、農會 縣に縣農會あり郡市町村に郡市町村農會あり各級農會相聯絡して農事の改良に努むるの外或は地主會を起して地主小作人等の融和を圖り或は生產品の販賣を斡旋し或は副業奨勵に努むる等其成績見るに足るものあり
- 二、産馬組合 産馬組合は福島若松の二市を除く外各郡共其設置あり更に之を統一して産馬組合聯合會を設く而して各組合は種牡馬及蕃殖用牝馬の撰擇に注意し地方に適合する良種を購入して蕃殖を圖り尙毎年馬匹共進會を開設し馬格の上進を企圖せり有名なる安積郡開盛山に開會する競馬會は産馬組合聯合會の主催にして毎年春秋二期に開き般賑を極む其他大沼、耶麻、石城の各郡には産牛組合あり
- 三、酒造組合 酒造組合は縣内各郡市に在り更に之を統一せる聯合會を設け同業者相團結して諸

般の施設を爲し時に縣外同種の會と聯合して清酒品評會を開く等鋭意酒造業の改善を圖れり

四、同業組合 同業組合の設立數は二十一組合各其從事する處の業務に付或は製品検査を施行し或は講習所を設くる等弊害の矯正と業務の發達とに貢獻する處少からず、其名稱を記すれば左の如し

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 安積郡蠶種同業組合 | 2 南會津郡蠶糸同業組合 |
| 3 田村郡蠶糸同業組合 | 4 伊達郡蠶種同業組合 |
| 5 石城郡蠶糸同業組合 | 6 福島縣製糸同業組合 |
| 7 保原蠶糸商同業組合 | 8 安達郡蠶種同業組合 |
| 9 福島信夫郡蠶種同業組合 | 10 相馬蠶糸同業組合 |
| 11 相馬米穀同業組合 | 12 安積米穀同業組合 |
| 13 雙葉米穀同業組合 | 14 會津人參商同業組合 |
| 15 大沼人參商同業組合 | 16 會津米同業組合 |
| 17 川俣絹織物同業組合 | 18 若松漆器同業組合 |

19 會津陶磁器同業組合

20 會津喜多方漆器同業組合

21 福島肥料商同業組合

五、水産組合 石城郡水産組合は石城郡を設立地區とし鯉節の製造改良を主なる目的とし其他漁撈の改良を圖れり漁業組合の設立せられしもの七十一にして逐年増加の傾向を示せり沿海三郡を設立地區としたる縣水産組合は大正二年の創立にして其事業として優良漁業組合、水産功勞者、漁夫職工の表彰、漁村の改良、水難救済、講習講話並に水産品評會等を開催す

六、産業組合 大正元年度末の産業組合数は三百十六にして組合員数は一萬九千八百六十四人過去三年間に組合数は二倍組合員数は十二倍餘の發達を示せり更に財産狀況の一斑を記すれば出資總額は六十九萬三千九百九十九圓準備金十一萬三千餘圓特別積立金三萬三千餘圓貯金三十五萬七千餘圓あり其信用組合数は二百二十二貸付金總高百四十五萬二千餘圓償還高七十六萬八千餘圓現在高六十八萬三千餘圓利率は最低一割一分四厘最高一割一分八厘なり購買組合数は百六十七購買總額三十九萬三千餘圓購買品目は肥料、油、綿糸等百六十種に上れり販賣組合数は六十二販賣總額百一萬餘圓に達す生産組合数は八加工料二萬四千圓使用料三百五十餘圓なり

以上組合の外産業組合福島支會の設立あり、縣と相俟て各組合の指導獎勵に努め縣は其事業に對し最近年額一千圓を補助したり

七、蠶絲會 本縣には大日本蠶絲會福島支會あり各郡に委員部を置き各氣脈を通し斯業の改良を圖れり

二、實業教育

實業教育に關する機關として縣立には工業學校、蠶業學校、農學校あり孰れも甲種程度なり工業學校は若松市に在り明治三十六年の創立にして染織、窯業、漆工科を置き定員を各六十名とす蠶業學校は信夫郡渡利村に在り明治二十九年の創始にかより養蠶に關する學理と技術とを授くるを目的とし修業年限は本科三年四個月別科は六個月なり農學校は西白河郡白河町に在り大正二年の創立にして修業年限は三個年とす又郡市立には信夫、岩瀬、河沼、東白川、相馬等に乙種農學校あり福島市には乙種商業學校あり其他町村立農業補習學校數は三百四十一に達す

三、實業機關

- (一) 縣立農事試驗場 安積郡郡山町に在り元同郡小原田村に在りしを明治四十三年現在地に移せり事業の主なるものは種藝部試驗に關する事項、種苗の配布、肥料及土壤試驗に關する事項、野鼠驅除、農事講習及農事講話等にして酸性土壤の改良、配合肥料の指導、野鼠驅除等に就ては特に良好なる成績を挙げつゝあり
- (二) 縣立工業試驗場 信夫郡渡利村に在り明治三十五年の創設にして機業に關する試験を爲す外染色の講習を開せり機織部に於ける大正元年度事業は羽二重モスリンに關する試験、節絲應用の織物試験、其他綾甲斐絹、凝モスリン、壁縮緬、絹織輸出向絹、絹紡羽二重、地紋段縮緬に關する試験にして染織部にては縣内當業者を會して短期講習を爲したり
- (三) 縣立水産試驗場 石城郡小名濱に在り明治三十五年の創立にして各種の水産製造試験を爲し鯉節罐詰製造の如き改良方法を當業者に普及し市價を高めたること少からず漁撈に於ては遠洋漁業漁撈員の養成をなし製造は罐詰、寒天、鯉節其他の製造品の試験、養殖に於ては鱒人工孵化

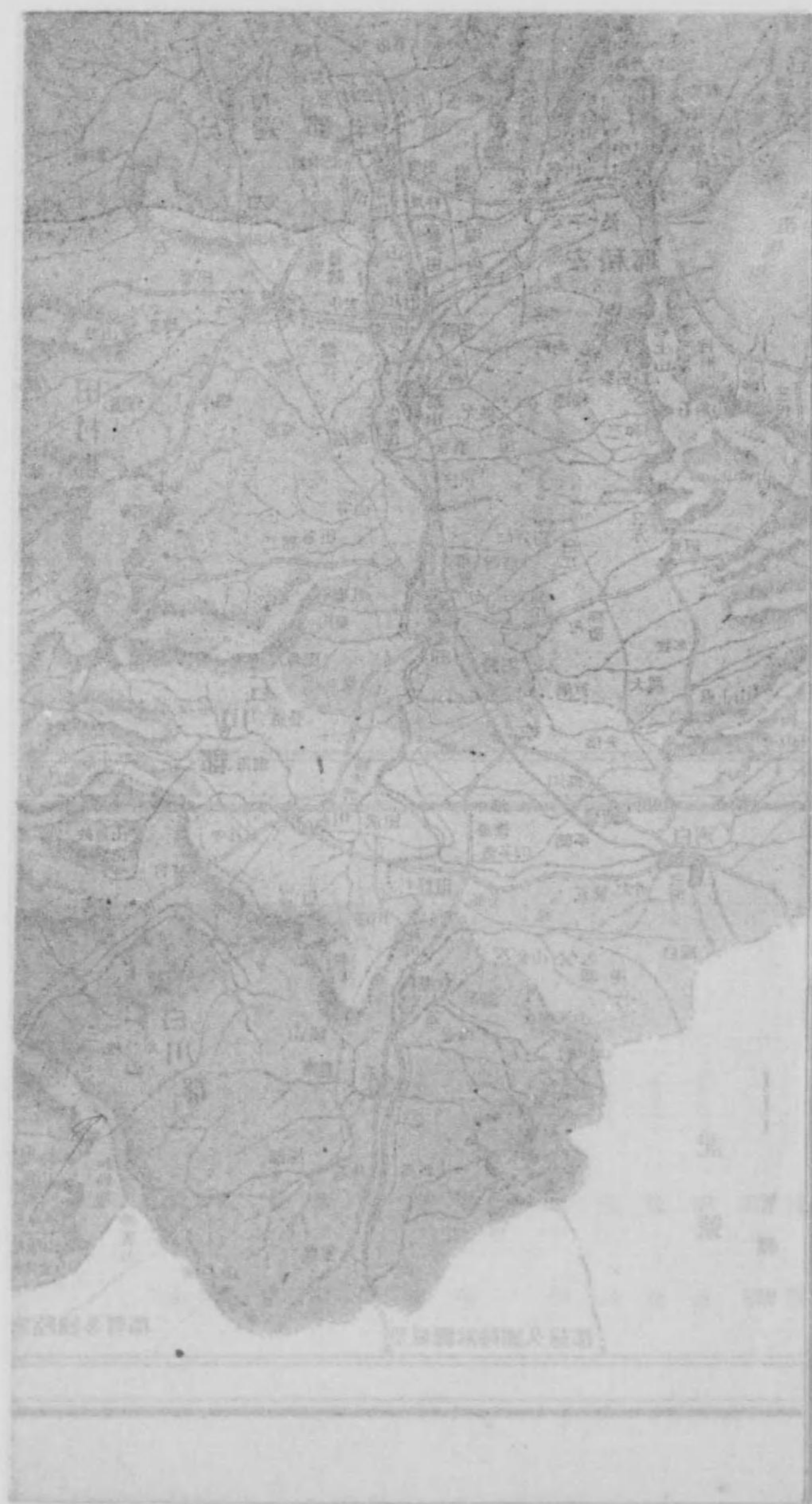
放流、稻田養鯉の試験及普及を圖る外氣象、海洋の觀測浮游生物の調査水産に關する講習講話等をなす

- (四) 種畜場 安達郡高川村に在り明治三十四年の創立にして初め福島縣產馬組合聯合會の施設にかかる翌三十五年之を縣有となせり事業の主なるものは外國種優良牡馬を飼育し民間の牝馬に配し馬格改良の資となし又民間よりの依託を受け優良馬匹を育成す其他飼料の試験、牧草の試作及種子配付を爲し或は畜産に關する講話、質疑應答及實地指導を爲せり
- (五) 縣有模範林 森林の經營及造成方法其他利用の模範を實地に示し併せて縣基本財産を作る目的を以て去る明治三十七年縣有模範林設置を計畫し三十八年より附屬苗圃を新設し三十九年安積郡丸守村に於て國有林野二千三百五十一町歩餘の拂下を受け四十年より之が更新に著手し杉、扁柏、櫟、落葉松を通し既に四百三十二町歩餘の植栽を了し今後十七個年間に全部完了の豫定を以て施業中なり
- (六) 羽二重検査所 輸出羽二重の不正増量を防遏し併て其改良を期せんが爲め去る三十八年中生羽二重の縣外搬出を禁じ同時に検査所を設置し精練羽二重の検査を執行し明治四十四年より新に

- 發布せられし羽二重検査法に準據し検査を施行せり検査所は川俣、福島、小高の三個所に置く
- (七) 蠶業取締所 本所を福島縣廳内に置き支所を福島、桑折、梁川、保原、掛田、二本松、郡山、三春、若松、原町に置き出張所を平、富岡、常葉、小野新町、白河、須賀川、伊北に置き蠶業に關する取締を爲せり
- (八) 縣立原蠶種製造所 伊達郡梁川町に在り大正三年より事業を開始し縣内蠶種の改善及其統一を圖り兼ねて良種の育成に力む
- (九) 福島測候所 信夫郡渡利村にあり支所を石城郡小名濱に置く一般氣象の觀測を爲す外養蠶期間霜害の豫報、暴風警報、地方天氣豫報等を爲す
- (十) 物産陳列館 福島市に在り明治四十四年の創設にして縣内當業者の委託を受け生産品を陳列して廣く公衆の觀覽に供し且つ之を即賣するの外縣内外に亘りて賣買を紹介し且つ有益なる標本圖書を陳列し入館者をして隨意閱覽せしむ
- (十一) 金融機關 金融機關としては農工銀行の外三十個の銀行あり拂込濟資本金三百八十萬圓積立金百五十餘萬圓を算し外に日本銀行支店及安田銀行其他の支店出張所あり樞要の市街地には概

ね二三の銀行若くは其支店出張所を有し金融の便多し金利は時に依り所に依り高低一ならざるも日歩二錢以上四錢以下を上下す

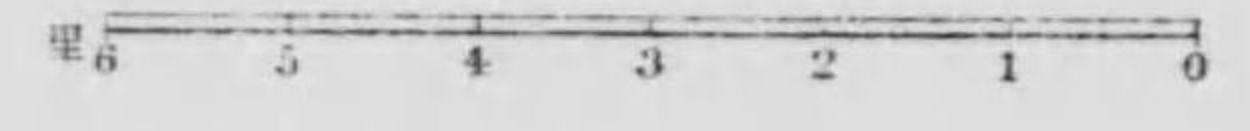
- (十二) 交通機關 縣内に通ずる鐵道五線あり東北本線奥羽線常磐線平郡線にして延長二百三十三哩に達す其中平郡線は目下工事中なり國道の延長は七十三里縣道二百四十餘里にして里道は一萬九百餘里に達す輕便鐵道は福島を起點として長岡及飯坂に至るもの長岡より支岐して保原、梁川、掛田に至るもの其延長十六里餘三春鐵道馬車は郡山より三春に通し延長三里其他石城郡地方に於ける専用鐵道及鐵道馬車等あり貨物及旅客の輸送を爲せり河川及港内航行の用に供せらる小船は三千二百四十三艘ありと雖も孰れも小形にして交通上甚だ重きを爲すの程度に達せず



福島縣の産業

福島縣管内全圖

陸里五十八万二千五百分一



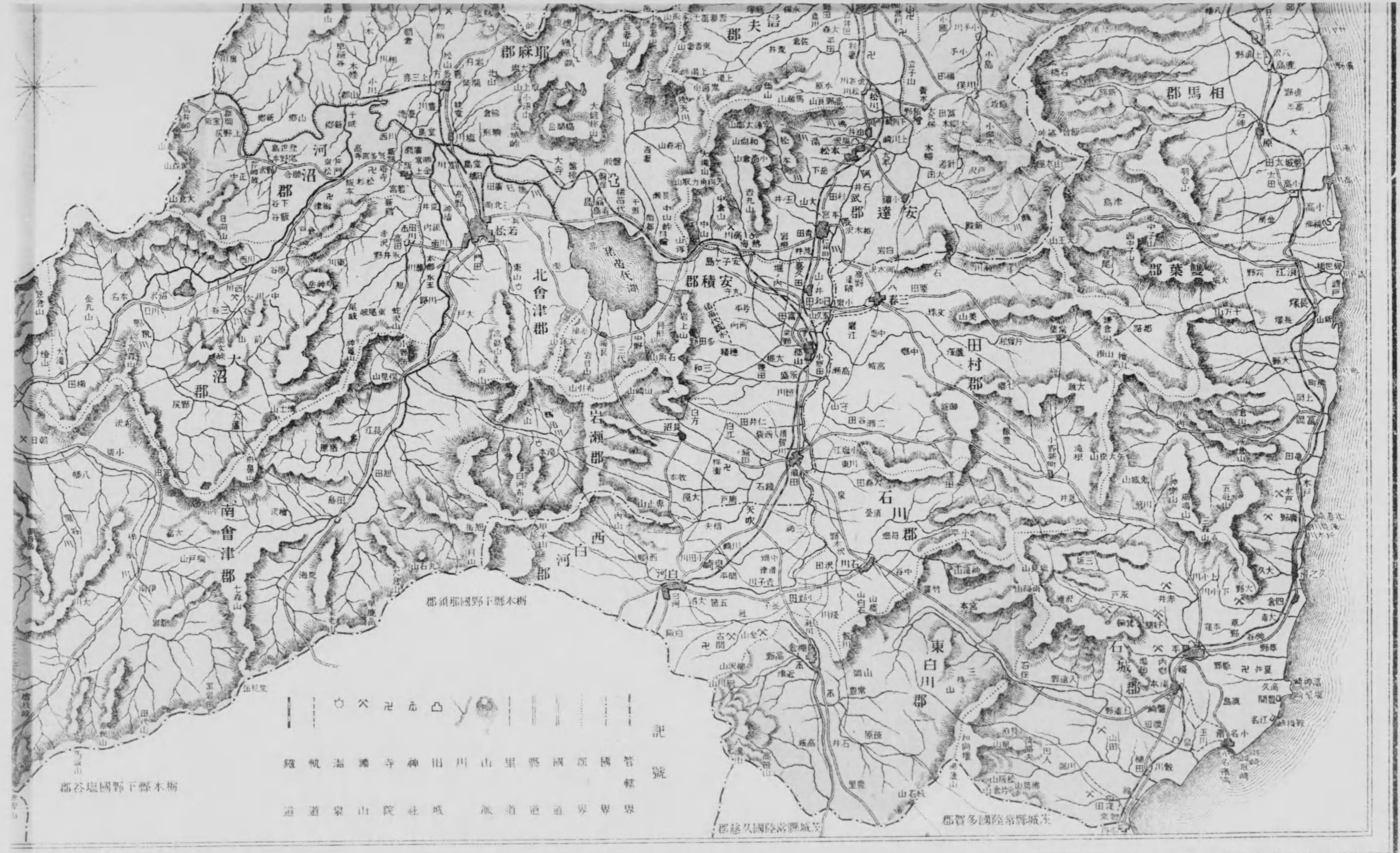
福島縣管内全圖

陸里五十八萬二千五十分之一

0 1 2 3 4 5 6 哩



新潟縣越後國北魚沼郡

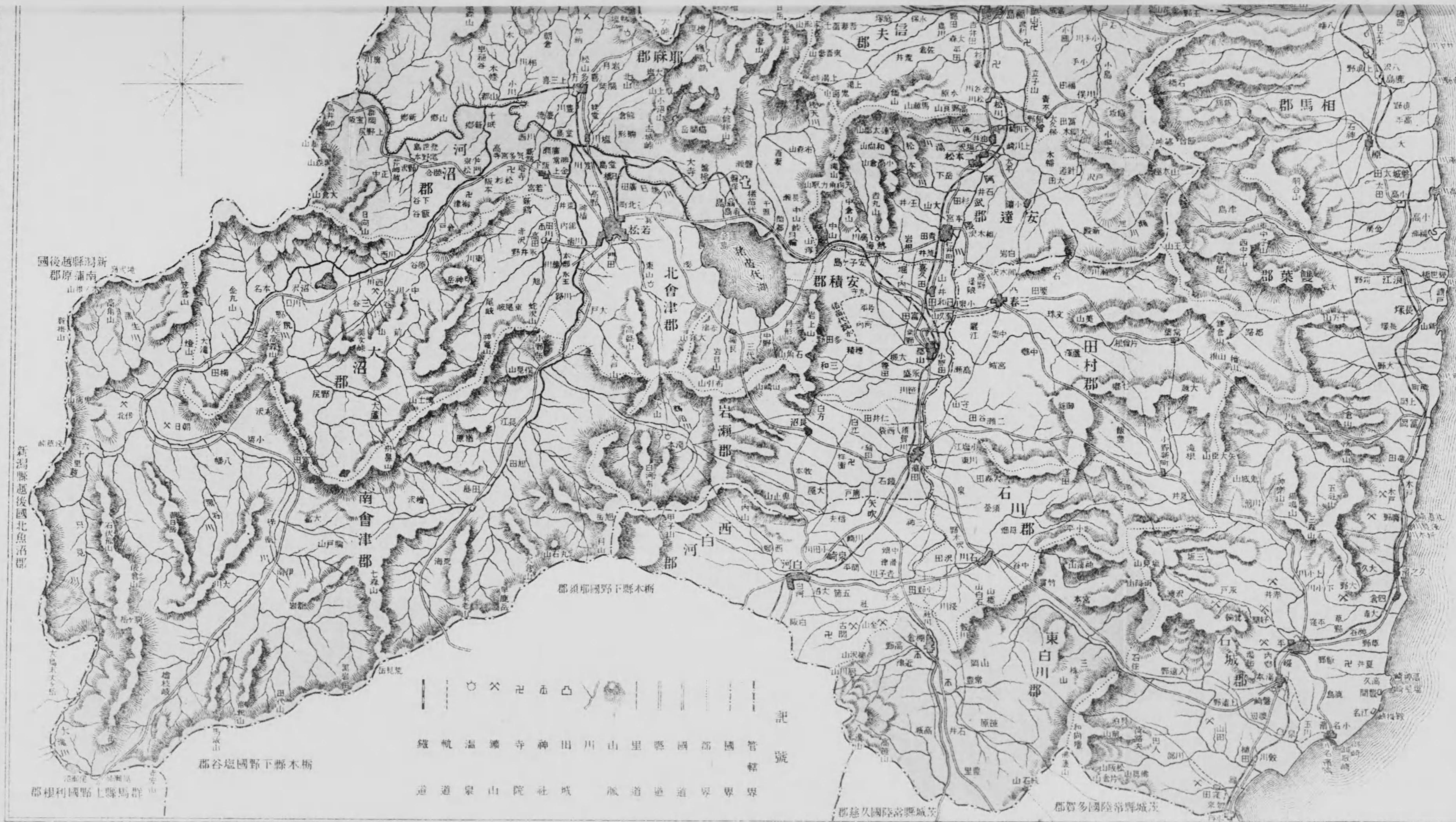
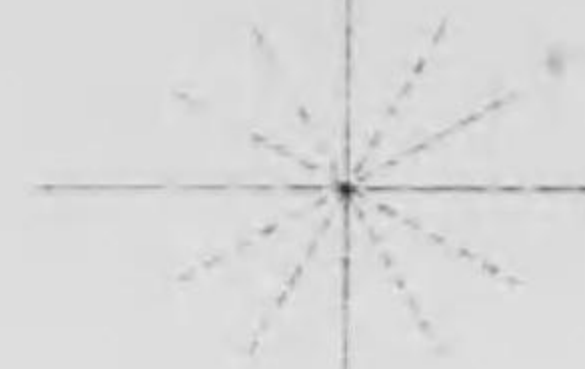


郡谷垣國野下縣本栃

鐵 帆 温 湯 寺 神 田 川 山 里 縣 國 郡 國 管
 道 道 泉 山 院 社 城 派 道 道 道 界 界 轄 號

郡越久國陸常縣城茨

郡智多國陸常縣城茨



記號

管轄

國郡

縣

里

山

川

田

社

院

城

道

泉

道

泉

道

泉

新潟縣越後郡南蒲原郡

新潟縣越後郡北魚沼郡

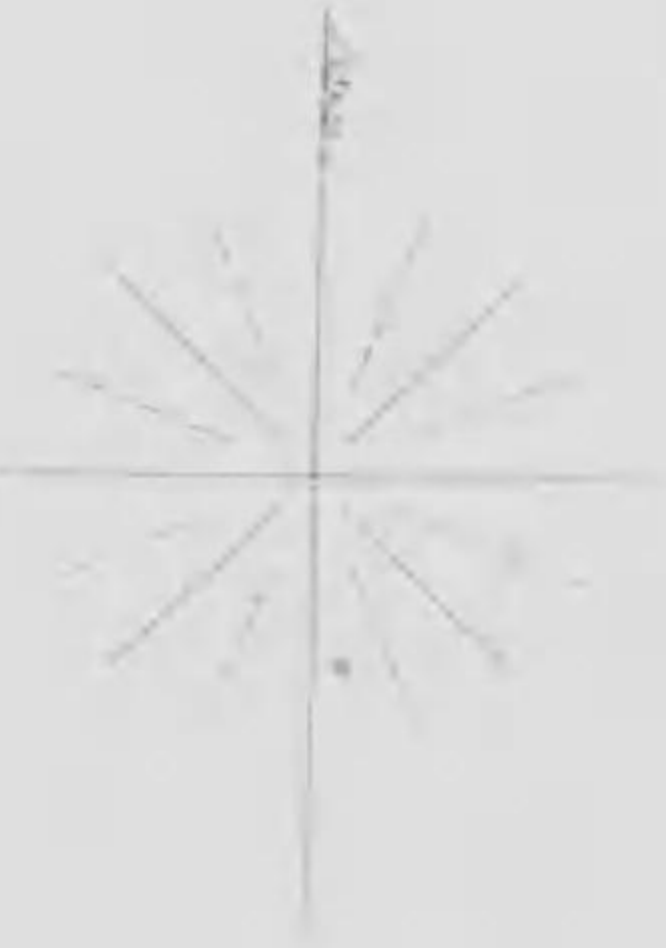
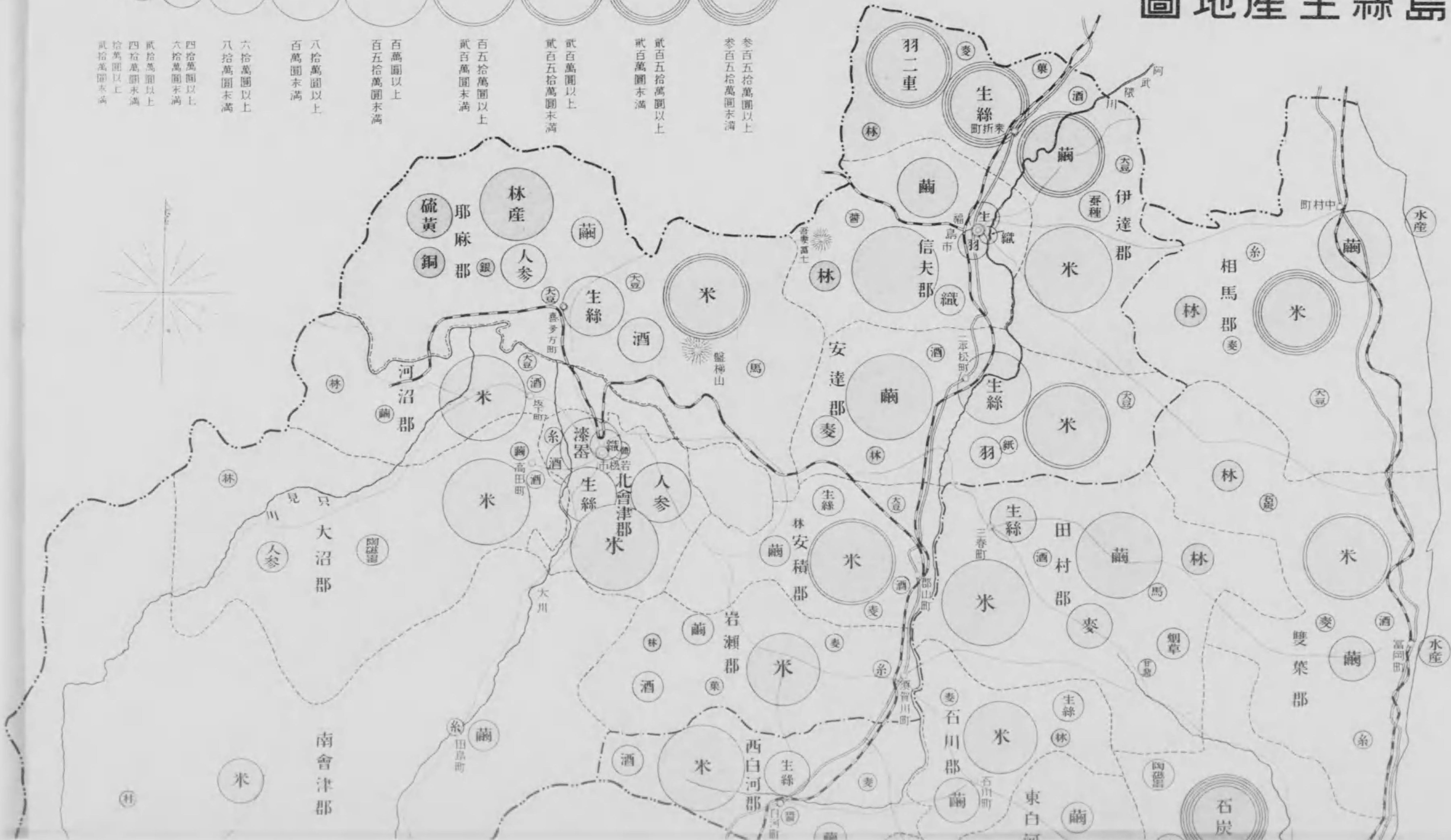
郡谷嵐國野下縣木柵

郡利國野上縣馬群

郡越及國陸常縣城茨

郡賀多國陸常縣城茨

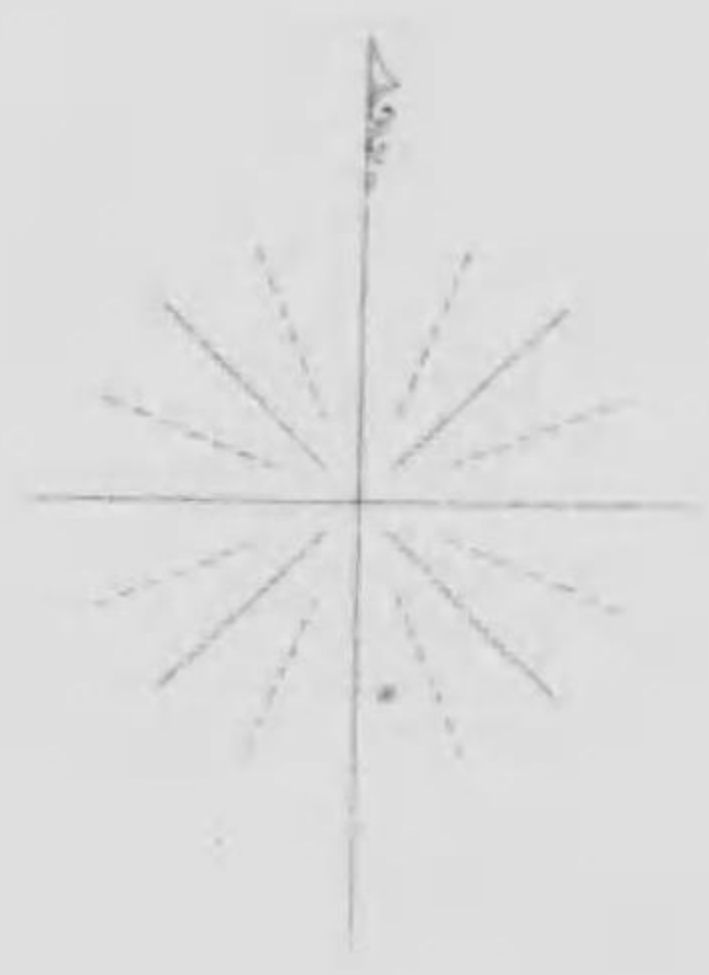
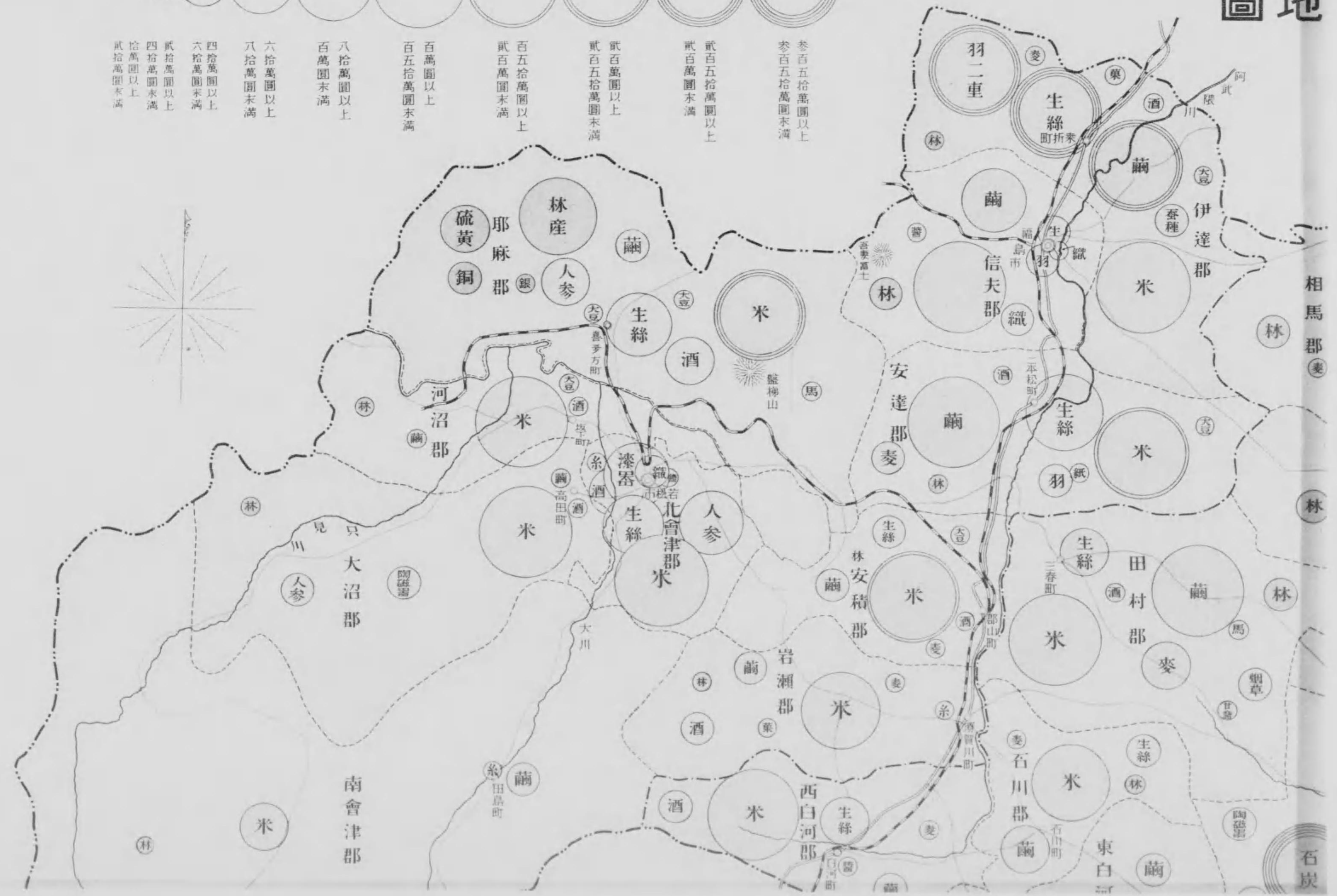
福島縣生產地產圖



地 圖



參百五十拾萬圓以上
 參百五十拾萬圓未滿
 貳百五十拾萬圓以上
 貳百五十拾萬圓未滿
 貳百五十拾萬圓以上
 貳百五十拾萬圓未滿
 百五十拾萬圓以上
 百五十拾萬圓未滿
 百五十拾萬圓以上
 百五十拾萬圓未滿
 八拾萬圓以上
 八拾萬圓未滿
 六拾萬圓以上
 六拾萬圓未滿
 四拾萬圓以上
 四拾萬圓未滿
 貳拾萬圓以上
 貳拾萬圓未滿
 拾萬圓以上
 拾萬圓未滿



相馬郡

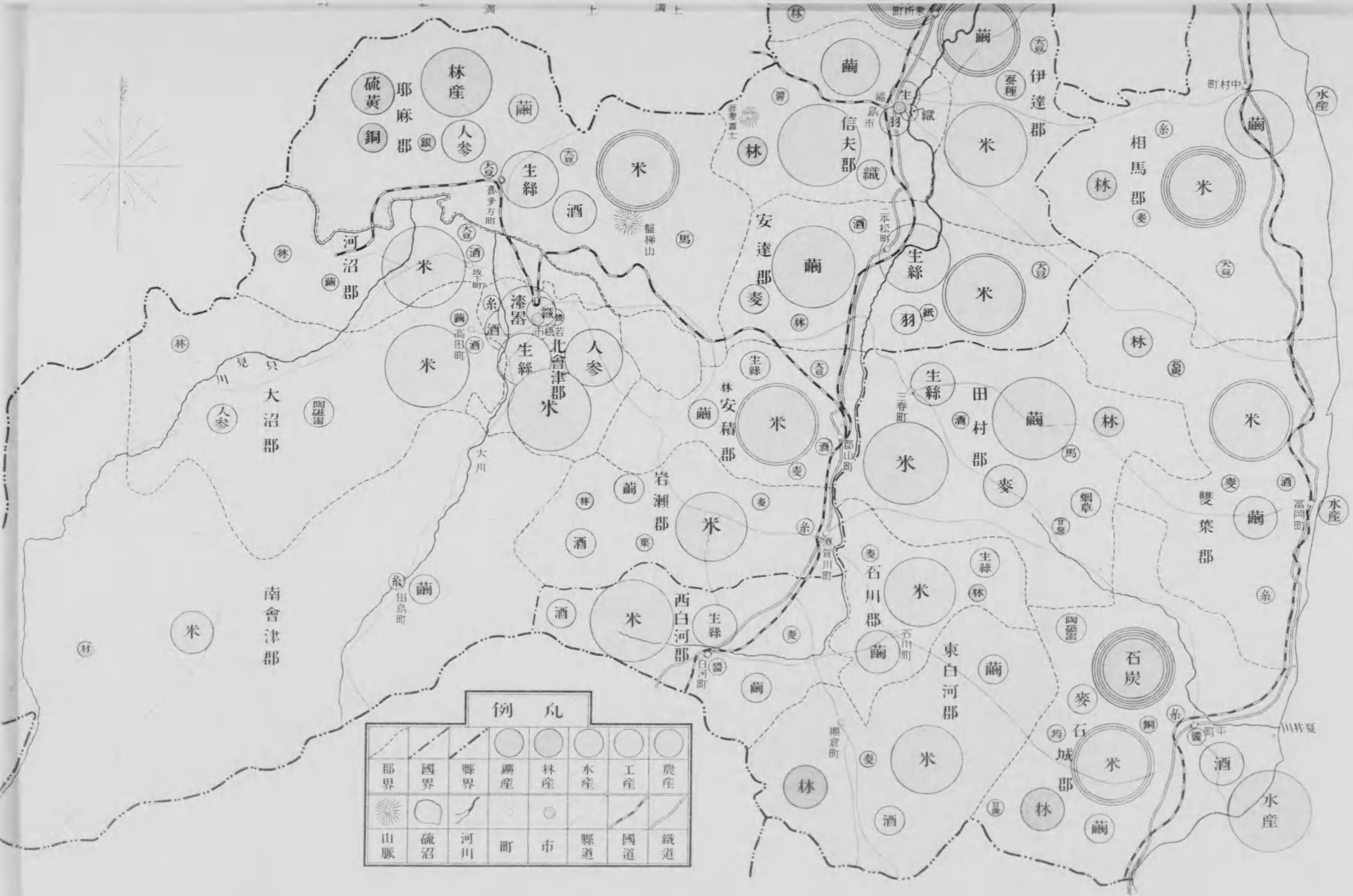
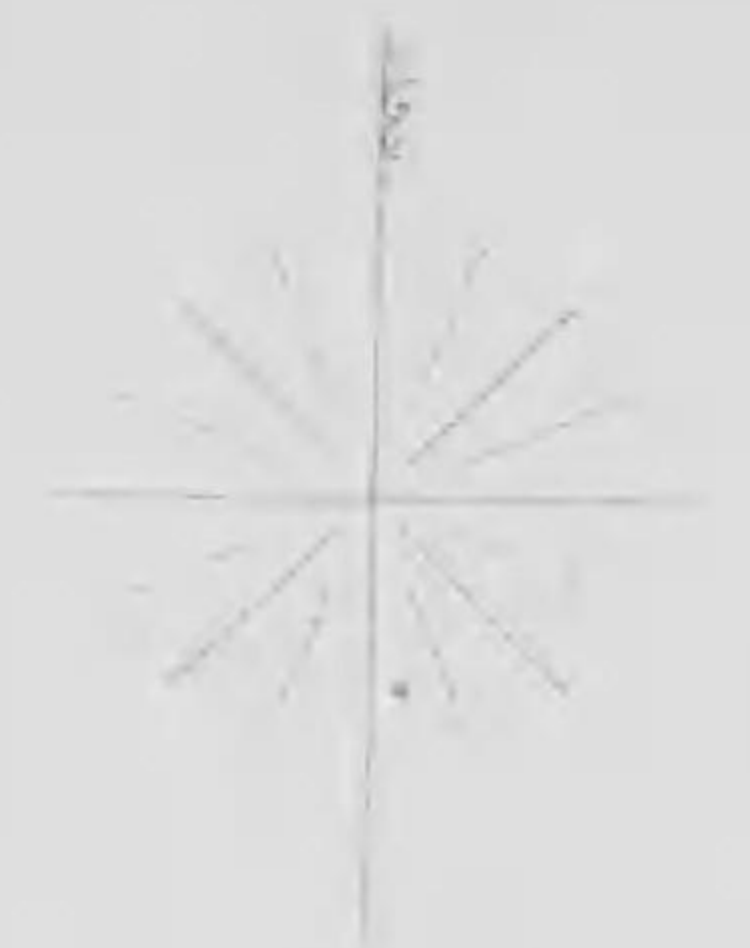
林

林

林

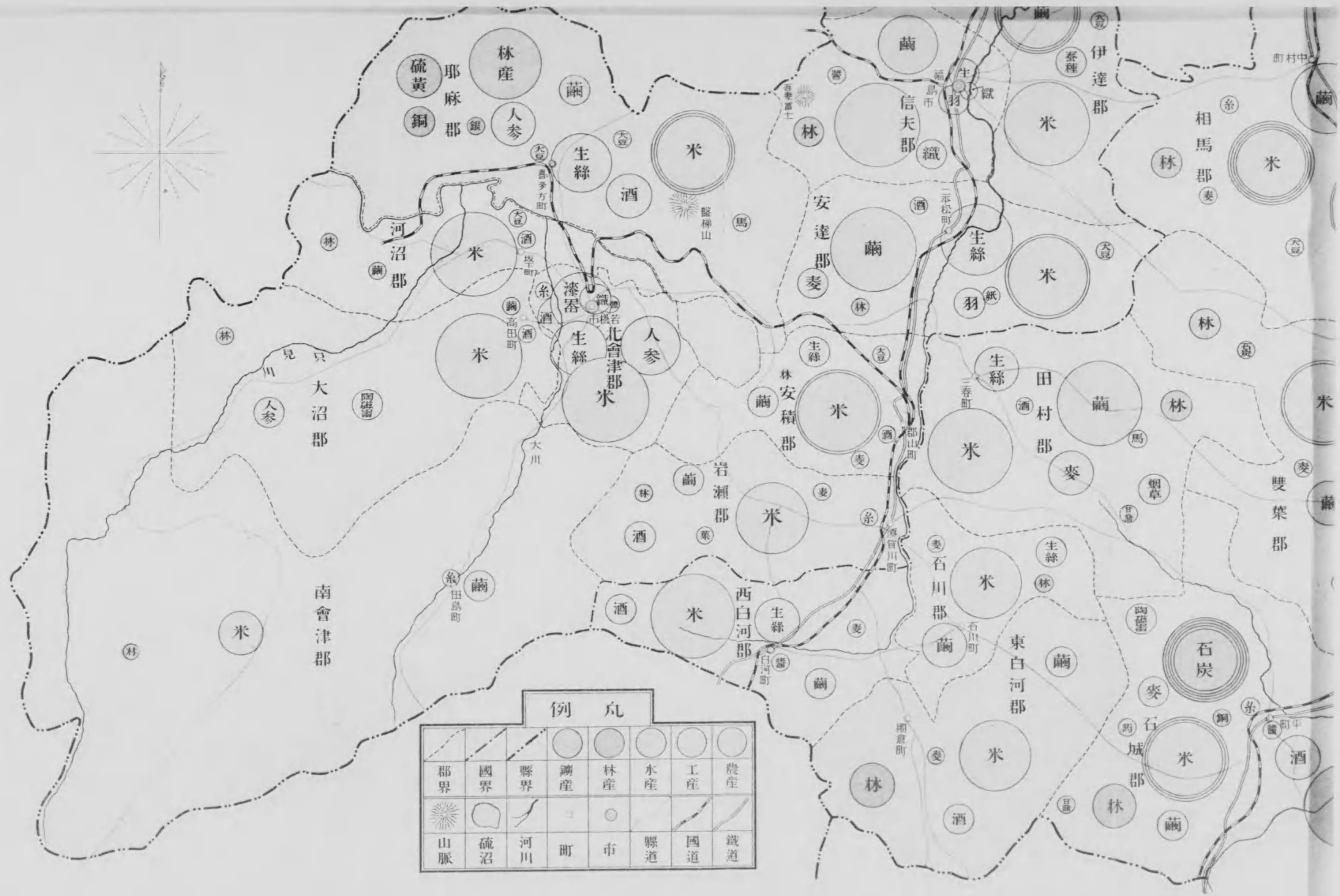
林

石炭



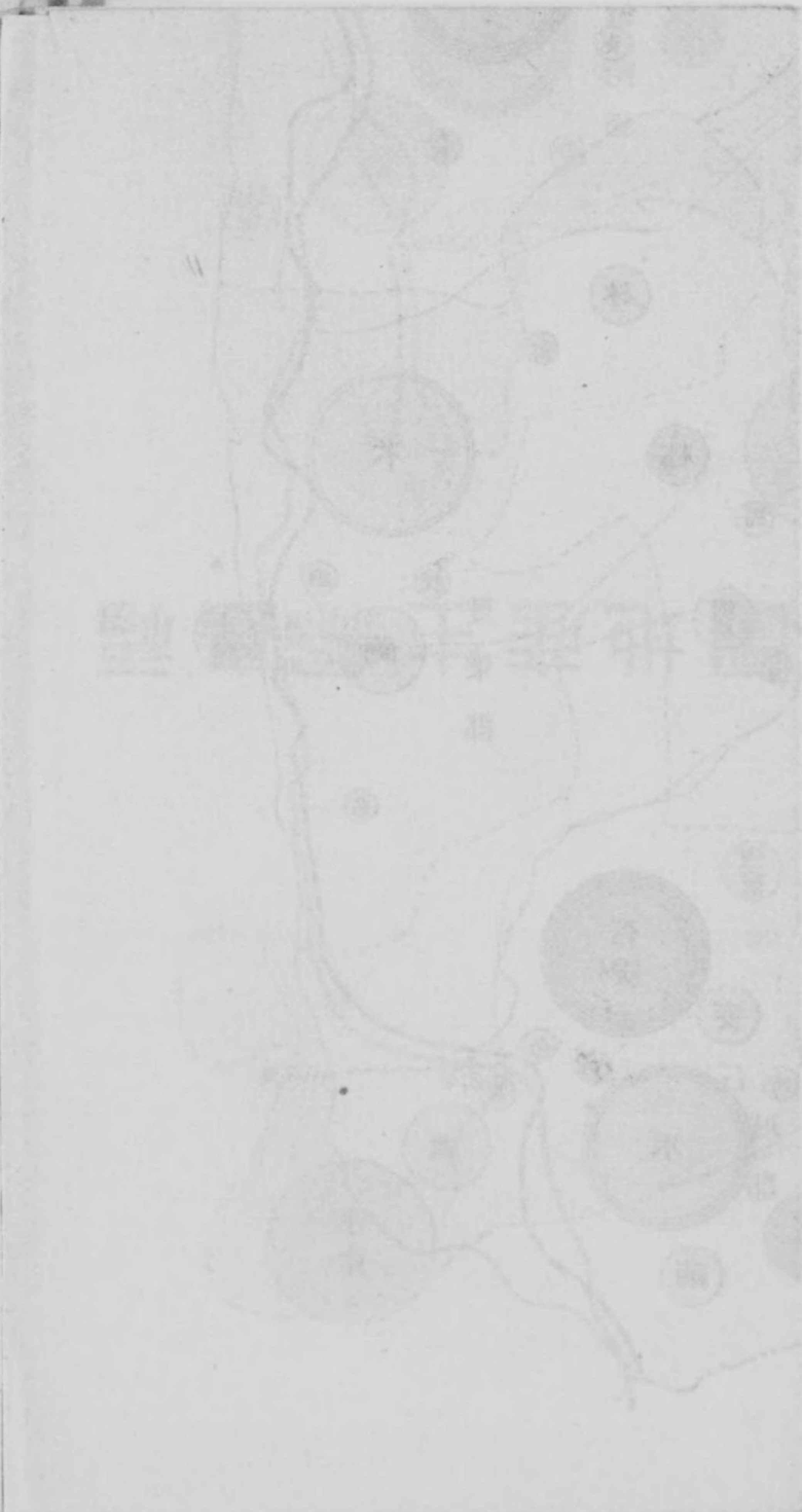
例 凡

郡界	國界	縣界	礦産	林産	水産	工産	農産
山脈	硫沼	河川	町	市	縣道	國道	鐵道



例 丸

郡界	國界	縣界	礦産	林産	水産	工産	農産
山脈	硫沼	河川	町	市	縣道	國道	鐵道



大正三年三月十七日印刷
大正三年三月二十日發行

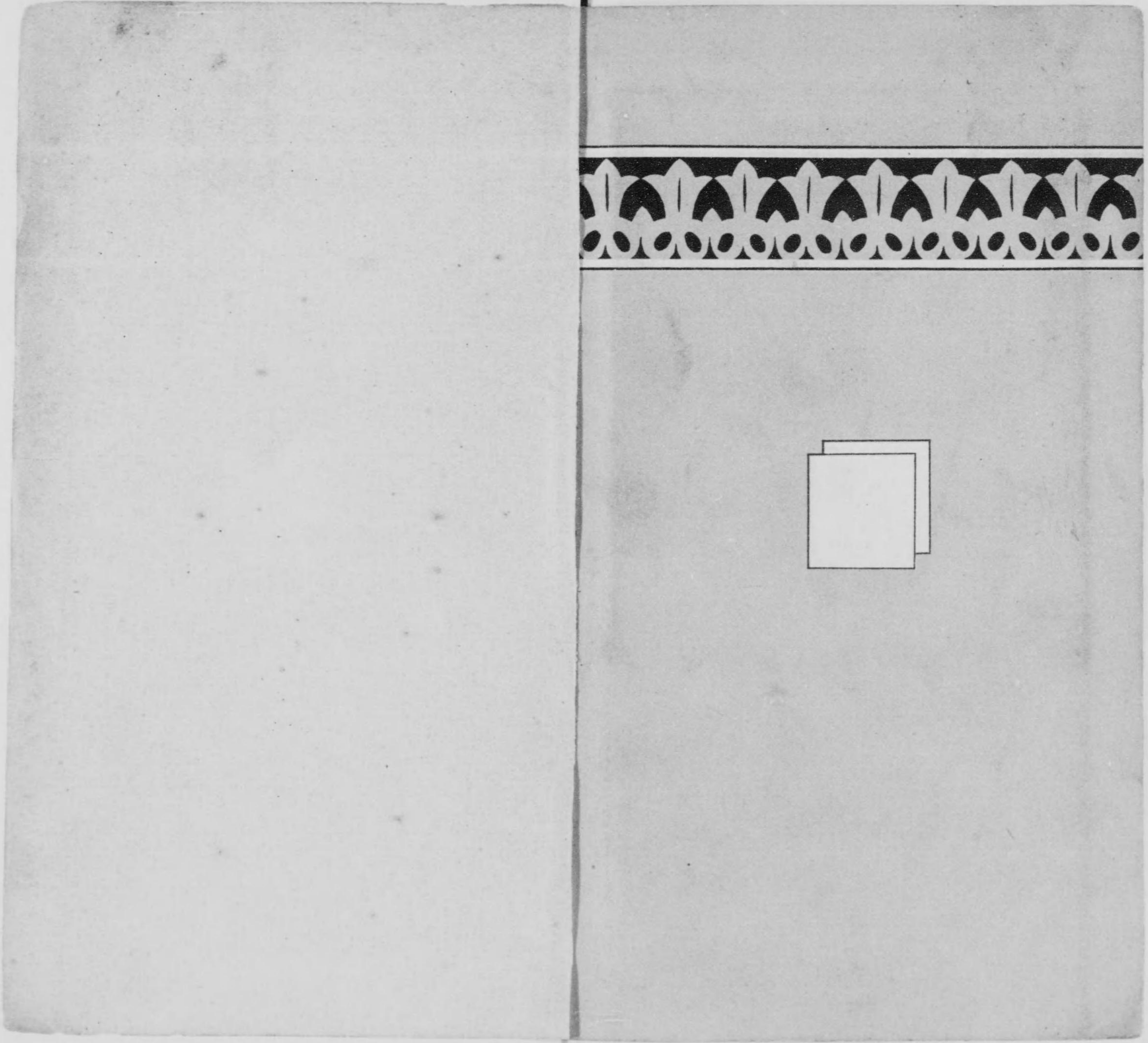
福 島 縣

東京市本所區番場町四番地

印刷者 平 井 登

東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場



82
6171

終

